

# 埼玉大学

SAITAMA UNIVERSITY 2020



**終了しました**

令和2年度

入学者選抜に関する要項

令和元年7月



# 目 次

I	学部・学科・課程・コース・専修・分野等及び募集人員	
	教養学部、経済学部、理学部、工学部	1
	教育学部	2
II	令和2年度入学者選抜日程の概要	3
III	学士課程の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	5
IV	一般入試	
1	出願資格	13
2	募集方法等	
A	分離分割方式及び併願について	13
B	大学入試センター試験及び個別学力検査等の出題教科・科目、配点等	15
C	実技検査	41
V	特別入試	
1	アドミッション・オフィス（AO）入試	44
2	推薦入試	45
3	社会人入試	58
4	帰国子女入試	59
5	私費外国人留学生入試	61
VI	障がい等のある入学志願者の事前相談について	65
VII	入学資格審査について	66
VIII	入試情報の開示	66
IX	令和2年度学生募集要項の入手方法	66
X	入試情報ホームページ及びスマホサイト	66

# I 学部・学科・課程・コース・専修・分野等及び募集人員

単位：人

学 部	学 科 又 は 課 程 等		入 学 定 員	区 分 ・ 募 集 人 員 等							
				一 般 入 試		特 別 入 試					
				前 期	後 期	AO	推 薦	帰 国	社 会	私 費	
教養学部	教 養 学 科		160	115	25	—	20	若干名	—	若干名	
経済学部	昼間コース	経 済 学 科	280	195 注2	20 注3	50	—	15	—	—	若干名
	夜間主コース	経 済 学 科	15	—	—	—	—	—	15	—	
	計		295	215	50	—	15	—	15	若干名	
教育学部	2 頁参照										
	計		380	284	—	—	96	—	—	—	若干名
理学部	数 学 学 科		40	20	20	—	—	—	—	—	若干名
	物 理 学 科		40	10	30	—	—	—	—	—	若干名
	基 礎 化 学 学 科		50	15	30	—	5	—	—	—	若干名
	分 子 生 物 学 学 科		40	22	18	—	—	—	—	—	若干名
	生 体 制 御 学 学 科		40	22	18	—	—	—	—	—	若干名
	計		210	89	116	—	5	—	—	—	若干名
工学部	機 械 工 学 ・ シ ス テ ム デ ザ イ ン 学 科		110	50	60	—	—	若干名	—	—	若干名
	電 気 電 子 物 理 工 学 学 科		110	55	55	—	—	若干名	—	—	若干名
	情 報 工 学 学 科		80	40	35	5	—	若干名	—	—	若干名
	応 用 化 学 学 科		90	40	50	—	—	若干名	—	—	若干名
	環 境 社 会 デ ザ イ ン 学 科		100	50	40	—	10	若干名	—	—	若干名
	計		490	235	240	5	10	若干名	—	—	若干名
合 計			1,535	938	431	5	146	若干名	15	若干名	

注

1 特別入試の内容表示

【AO】アドミッション・オフィス（AO）入試 【推薦】推薦入試 【帰国】帰国子女入試

【社会】社会人入試 【私費】私費外国人留学生入試

2 経済学部 一般入試枠

3 経済学部 国際プログラム枠

単位:人

学部	募集単位等	入学定員	一般入試		AO	推薦	帰国	社会	私費		
			前期	後期							
教育学部	文系	117	117	-	-	-	-	-	-		
	理系	38	38	-	-	-	-	-	-		
	実技系	音楽分野	23	23	8(注1)	-	-	-	-	-	
		図画工作分野		7(注1)	-	-	-	-	-	-	
		体育分野		8(注1)	-	-	-	-	-	-	
	(教育学に関心を持つ者)	62	-	-	-	62	6(注1)	-	-	-	
	(心理学・教育実践学に関心を持つ者)		-	-	-		14(注1)	-	-	-	
	(国語教育に関心を持つ者)		-	-	-		2(注1)	-	-	-	
	(英語教育に関心を持つ者)		-	-	-		2(注1)	-	-	-	
	(社会科教育に関心を持つ者)		-	-	-		10(注1)	-	-	-	
	(算数教育に関心を持つ者)		-	-	-		3(注1)	-	-	-	
	(理科教育に関心を持つ者)		-	-	-		5(注1)	-	-	-	
	(音楽教育に関心を持つ者)		-	-	-		5(注1)	-	-	-	
	(図画工作教育に関心を持つ者)		-	-	-		3(注1)	-	-	-	
	(体育教育に関心を持つ者)		-	-	-		5(注1)	-	-	-	
	(ものづくりと情報教育に関心を持つ者)		-	-	-		4(注1)	-	-	-	
	(家庭科教育に関心を持つ者)		-	-	-		3(注1)	-	-	-	
	教育学専修		-	-	-		-	-	-	-	若干名
	心理・教育実践学専修		-	-	-		-	-	-	-	若干名
	言語文化専修	国語分野	-	-	-	-	-	-	若干名		
		英語分野	-	-	-	-	-	-	若干名		
	社会専修	-	-	-	-	-	-	-	若干名		
	自然科学専修	算数分野	-	-	-	-	-	-	若干名		
		理科分野	-	-	-	-	-	-	若干名		
	芸術専修	音楽分野	-	-	-	-	-	-	若干名		
		図画工作分野	-	-	-	-	-	-	若干名		
	生活創造専修	ものづくりと情報分野	-	-	-	-	-	-	若干名		
		家庭科分野	-	-	-	-	-	-	若干名		
	言語文化専修	国語分野	8	6	-	-	2	-	-	若干名	
		英語分野	9	7	-	-	2	-	-	若干名	
	社会専修	数学分野	10	8	-	-	2	-	-	若干名	
		理科分野	12	10	-	-	2	-	-	若干名	
	自然科学専修	算数分野	13	10	-	-	3	-	-	若干名	
		理科分野	5	3	-	-	2	-	-	若干名	
	芸術専修	音楽分野	5	3	-	-	2	-	-	若干名	
		美術分野	5	3	-	-	2	-	-	若干名	
	身体文化専修	保健体育分野	6	3	-	-	3	-	-	若干名	
		技術分野	7	5	-	-	2	-	-	若干名	
	生活創造専修	技術分野	5	3	-	-	2	-	-	若干名	
		家庭科分野	20	15	-	-	5	-	-	若干名	
乳幼児教育コース	20	18	-	-	2	-	-	若干名			
特別支援教育コース	20	15	-	-	5	-	-	若干名			
養護教諭養成課程	20	15	-	-	5	-	-	若干名			
計	380	284	-	-	96	-	-	若干名			

(注1)この内訳は目安である。

※ 教育学部は、後期日程の募集はしない。

【所属専修(分野)について】

●推薦入試での入学者については、以下のとおりの所属となる。

募集単位等	1年次後半以降所属
教育学に関心を持つ者	教育学専修
心理学・教育実践学に関心を持つ者	心理・教育実践学専修
国語教育に関心を持つ者	言語文化専修 国語分野
英語教育に関心を持つ者	言語文化専修 英語分野
社会科教育に関心を持つ者	社会専修
算数教育に関心を持つ者	自然科学専修 算数分野
理科教育に関心を持つ者	自然科学専修 理科分野
音楽教育に関心を持つ者	芸術専修 音楽分野
図画工作教育に関心を持つ者	芸術専修 図画工作分野
体育教育に関心を持つ者	身体文化専修 体育分野
ものづくりと情報教育に関心を持つ者	生活創造専修 ものづくりと情報分野
家庭科教育に関心を持つ者	生活創造専修 家庭科分野

●一般入試での小学校コース文系及び理系入学者については、本人の希望と1年次前半の成績によって所属する専修(分野)を決定する。所属先は原則として以下の通り。

・文系入学者の所属先 教育学専修、心理・教育実践学専修、言語文化専修国語分野、言語文化専修英語分野、社会専修、生活創造専修家庭科分野\*

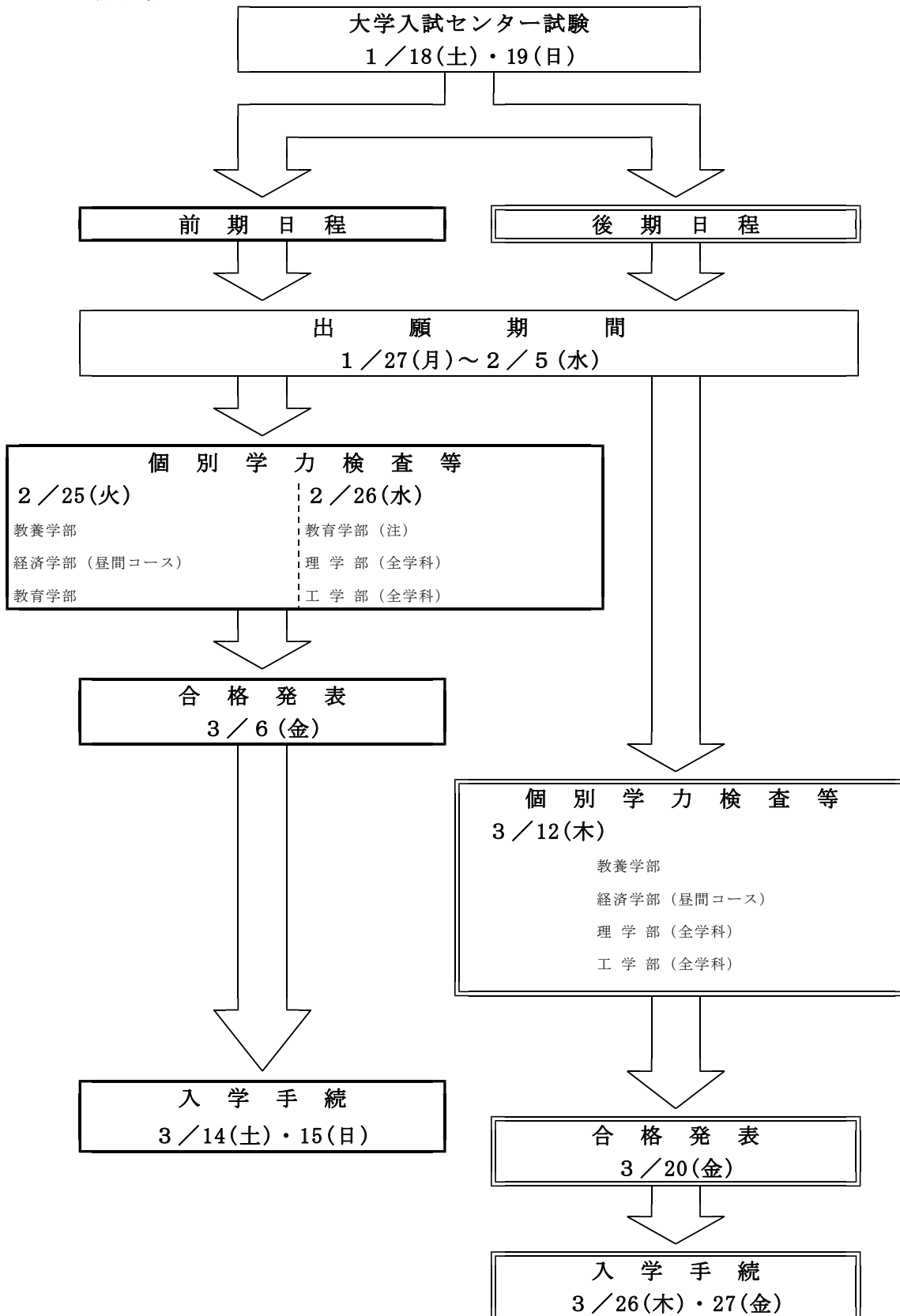
・理系入学者の所属先 自然科学専修算数分野、自然科学専修理科分野、生活創造専修ものづくりと情報分野、生活創造専修家庭科分野\*

\*生活創造専修家庭科分野は、文系入学者・理系入学者いずれも所属先とすることができる。

●小学校コース実技系入学者については、原則として個別学力検査科目に対応する専修(分野)に所属する。

## Ⅱ 令和2年度入学者選抜日程の概要

### 1 一般入試



(注) 2/26(水) 教育学部の個別学力検査等実施募集単位

学校教育教員養成課程 小学校コース 実技系音楽分野・図画工作分野、中学校コース 芸術専修音楽分野・美術分野及び生活創造専修技術分野が対象になります。それ以外の募集単位は、2/25(火)に全て実施します。

## 2 特別入試

選抜区分	出願期間	学 部	入試期日	合格発表	入学手続		
AO入試	9/2(月)～ 9/9(月)	工学部	講義：10/4(金), 10/11(金), 10/18(金) 面接：11/16(土)	12/3(火)	12/12(木)		
推薦入試	11/1(金)～ 11/7(木)	教養学部	11/16(土)	12/3(火)	12/12(木)		
		経済学部	11/16(土)	2/10(月)	2/17(月)		
		教育学部	11/16(土), 17(日)	注1)	注2)		
		理学部	11/16(土)	2/10(月)	2/17(月)		
		工学部	11/16(土)	2/10(月)	2/17(月)		
社会人入試	10/7(月)～ 10/15(火)	経済学部 (夜間主コース)	11/16(土)	12/3(火)	12/12(木)		
帰国子女入試		教養学部	2/25(火)	3/6(金)	3/14(土), 15(日)		
		工学部	2/26(水)				
私費外国人 留学生入試	1/20(月)～ 1/27(月)	教養学部	2/25(火)	3/6(金)	3/14(土), 15(日)		
		経済学部 (昼間コース)	2/18(火), 20(木)				
		教育学部	2/21(金), 25(火), 26 (水) 注3)				
		理学部	3/12(木), 13(金)			3/20(金)	3/26(木), 27(金)
		工学部	2/26(水)			3/6(金)	3/14(土), 15(日)

注1) 大学入試センター試験を課す募集単位等 2/10(月)

大学入試センター試験を課さない募集単位等 12/3(火)

注2) 大学入試センター試験を課す募集単位等 2/17(月)

大学入試センター試験を課さない募集単位等 12/12(木)

注3) 志望課程・コース・専修・分野によって日程が異なるため、61頁を確認すること。

### Ⅲ 学士課程の入学受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

首都圏の一角を構成する埼玉の地で、ひとつのキャンパスに全学部が集まる総合大学として、埼玉大学は多様な個性が行き交い、融合する場として発展することを目指しています。私たちの下で学んだ卒業生が主体的にこの機会を活かし、知の継承を支える人に育つことを期待します。

社会を構成する組織と活動はますます広域化・複雑化しており、多くの人や組織をひとつの目的に向けて協力させることは困難になる一方で、切実に必要とされています。埼玉大学は実験報告や演習などを通じて知を伝え合う教育や、英語など国際化教育のために多くの資源を割いていますが、自分が確かな専門性を持ってこそ、交流による相互貢献も豊かなものになります。専門的な知を得ること、それを伝え、また受け入れること、そしてその全体を主体的に推し進めることのすべてが大切です。

埼玉大学の各学部では、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に沿った多様な教育を実施し、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に沿った厳格な卒業認定を行います。埼玉大学および入学する学部について、ふたつのポリシーを理解し、自らが学ぶ場として主体的に選んでくれることを、すべての入学者に希望します。

多様性は現代の大学に課された重要課題です。大学もまたひとつの社会なので、教職員も含めすべての参加者が国籍や性別、ハンディキャップの有無に関わらず、互いに尊重し合う方法を学ばなければなりません。

埼玉大学は、キャンパスに多様な知性が輝き融合するよう、各学部・学科等において様々な条件の入試を課します。

#### 1 教養学部の入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

**教養学部では、次のような人材の育成を目指します。**

教養学部は、グローバル・ガバナンス、現代社会、哲学歴史、ヨーロッパ・アメリカ文化、日本・アジア文化の5専修より構成され、人文学・社会科学の伝統・成果の継承と、多様な文化や価値観の理解を深めるための教育・研究を行っています。自ら問題を設定し解決する能力と、国内外の人々との的確なコミュニケーション能力を身につけて現代の諸問題に適切に対処し、解決の展望を切り拓ける人材の育成を目標としています。

**教養学部では、次のような知識の修得、能力の獲得を目指した教育を行います。**

- ① 人文学、社会科学、自然科学に関する幅広い基礎知識
- ② 人文学、社会科学の専門分野(グローバル・ガバナンス、現代社会、哲学歴史、ヨーロッパ・アメリカ文化、日本・アジア文化)における十分な知識と能力
- ③ 国際的視野を持ち、国内外の多様な文化及び価値観を理解する能力
- ④ 自ら問題を設定して論理的に考察し、表現する能力
- ⑤ 国内外の人々との的確に意思を疎通できる能力

**教養学部では、次のような人が入学することを望んでいます。**

- ① 高等学校までの課程の教育内容を幅広く修得している人
- ② 自らを高め、社会に貢献する意欲と経験のある人
- ③ 様々な地域・時代の人々及びその文化に関心と敬意を抱ける人
- ④ 英語をはじめとする外国語を修得する意欲のある人

教養学部では、広く全国の高等学校卒業者、帰国子女、外国人留学生などの中から、学士課程教育を受ける適性のある人を積極的に受け入れます。多様な入学受入れのため、それぞれの条件を考慮して以下のような複数の入学試験を実施します。

##### (1) 一般入試(前期日程)

- ・高等学校における学習状況等を記載した出身学校長作成の「調査書」を選抜の基礎資料とします。
- ・基礎的な学力を調べるために大学入試センター試験を課します。
- ・専門教育の基礎となる学力を調べるために、外国語の試験を課します。



(2) 一般入試（後期日程）

- ・高等学校における学習状況等を記載した出身学校長作成の「調査書」を選抜の基礎資料とします。
- ・基礎的な学力を調べるために大学入試センター試験を課します。
- ・小論文を課します。小論文では、論理的な考察力、記述力、表現力などを調べます。

(3) 推薦入試

- ・出身学校長作成の「推薦書」などの内容を選抜の基礎資料とします。
- ・課題を与えて小論文を課します。小論文では、論理的な考察力、記述力、表現力などを調べます。
- ・面接を課します。面接では、在学中の課外活動などをはじめとする各種の特記事項、本学部での勉学意欲などを含めて総合的に判断します。

(4) 帰国子女入試

- ・出身学校における学習状況などを記載した出身学校長作成の「成績証明書」などの出願時に提出された資料を面接の際に活用し、総合的判断に用います。
- ・面接を課します。面接では、理解力、勉学意欲、日本語能力、海外生活で何を修得したかななどを調べます。

(5) 私費外国人留学生入試

- ・出身学校における学習状況などを記載した出身学校長作成の「成績証明書」などの出願時に提出された資料を面接の際に活用し、総合的判断に用います。
- ・基礎的な学力を調べるために「日本留学試験」（日本語、数学、総合科目）を課します。
- ・専門教育の基礎となる学力を調べるために、個別学力検査（外国語）を課します。
- ・面接を課します。面接では、理解力、勉学意欲、日本語能力などを調べます。

## 2 経済学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

**経済学部では、私たちの下で学んだ卒業生が次のような人に育つことを期待します。**

- ① 自らの感性を生かし、すすんで問題を発見し、その解決方法を探究できる人
- ② 国際的視野をもち、社会に積極的に意見を発信し、貢献することができる人
- ③ 自らの教養と専門的知見を、卒業した後も積極的に高めていくことができる人

**経済学部では、次のような知識、能力などの獲得を目指した教育を行います。**

- ① 社会科学に関する幅広い基礎知識と、各専門分野（経済分析、国際ビジネスと社会発展、経営イノベーション、法と公共政策）についての体系的で深い専門的知識
- ② 疑問を学びにつなげ、目的に沿って学びをデザインする能力(必修科目「アカデミック・スキルズ」など)
- ③ 国際的視野に裏打ちされた対話能力(プレゼミ、演習など)
- ④ 自ら問題を発見・探求し、その成果を統合的にまとめ、効果的に発信できる能力(卒業研究)

**経済学部では、次のような人が入学することを望んでいます。**

- ① 高等学校までに学ぶべきことがらを幅広く修得し、入学後に必要な基礎学力を有している人
- ② 国内外の社会のさまざまな問題に対して旺盛な好奇心や知的関心をもち、それらを学ぶ意欲が高い人
- ③ 自分の将来像を思い描き、その中に経済学部で学ぶ意味を位置づけられる人
- ④ 幅広い教養と社会科学の専門的知見を身につけて、社会に貢献したいと考えている人
- ⑤ 自らの知識や経験を生かして、生涯にわたり自分自身をさらに発展させようと考えている人

**経済学部では、入学する皆さんに次のような学習姿勢を期待します。**

(1) 基礎学力の習得

- ・思考を明瞭にし、人に正しく伝える基礎的な力として、意味を明確に理解して使いこなせる豊かな語彙を蓄えること。
- ・断片的な知識の後ろにある一般的な論理や構造に関心を持ち、ある事柄が正しいと認めるときは、そのための条件や前提を合わせて理解すること。

(2) 国内外の社会への関心を養うこと

- ・社会の諸現象について、過去の例、他地域・他産業の例などとの比較の視点を持ち、そこから学べる点を自分の言葉にまとめ直して、すぐ取り出せるようにしておくこと。
- ・ひとつの問題を複数の立場(利害関心)や複数の社会的な望ましさからとらえ、それらの対立点を理解し、複合的に問題を見る練習をすること。

(3) 論理的思考力・表現力およびその基礎となる読解力の習得

- ・主張の根拠とその確からしさを意識し、相対的・客観的な見方によって議論を整理できるようになること。
- ・文章やデータなどの判断材料に基づき、正しいかどうかを客観的に判断する多様な方法を身につけ、具体的な問題に応用できるようになること。
- ・文章構成(論理の流れ、段落分けなど)を意識した、平明に論旨が伝わる文章が書けるようになること。

**経済学部では、多様なバックグラウンドから上記のような条件に沿う入学者を受け入れるため、それぞれの条件を考慮して以下のような複数の入学試験を実施します。**

(1) 一般入試(前期日程)

- ・高等学校における学習状況等を記載した出身学校長作成の「調査書」を選抜の基礎資料とします。
- ・基礎的な学力を調べるために大学入試センター試験を課します。
- ・専門知識を修得する学力を調べるために、国語、数学、外国語の教科について試験を課します。
- ・「国際プログラム枠」では、国内外の社会に関する関心と論理的思考力・表現力を評価するために、小論文を課します。

(2) 一般入試(後期日程)

- ・高等学校における学習状況等を記載した出身学校長作成の「調査書」を選抜の基礎資料とします。
- ・基礎的な学力を調べるために大学入試センター試験を課します。
- ・課題を与えて小論文を課します。文章を読み、著者の考えを要約または説明させる設問と、それを踏まえて自分の考えを述べる設問を出題します。前者においては文章を要約できる理解力、論理的な明晰さ、段落分けなど文章構成の明確さ、後者においては論理的整合性、与えられた著者の考えとの対比・関連の明快さ、社会科学や社会の出来事に関連する知識の豊かさを中心に評価します。

(3) 推薦入試

- ・英語と国際化に関連する埼玉大学経済学部の教育を積極的に受け止め活用してくれることを期待して、国際化と英語に自己投資を済ませた学生、すなわち留学経験者と外部英語能力試験の成績優秀者を募集対象とします。
- ・課題を与えて小論文を課します。文章を読み、著者の考えを要約または説明させる設問と、それを踏まえて自分の考えを述べる設問を出題します。前者においては文章を要約できる理解力、論理的な明晰さ、段落分けなど文章構成の明確さ、後者においては論理的整合性、与えられた著者の考えとの対比・関連の明快さ、社会科学や社会の出来事に関連する知識の豊かさを中心に評価します。
- ・人物・学業ともに優れ、社会科学に広く関心を持ち、積極的に学習する意欲を持っているかを調べるために、「自己推薦書」等を基礎資料として面接を課します。

(4) 私費外国人留学生入試

- ・出身学校における学習状況等を記載した出身学校長作成の「成績証明書等」を選抜の基礎資料とします。
- ・基礎的な学力を調べるために、「日本留学試験」(日本語、数学、総合科目または理科)を課します。
- ・課題を与えて小論文を課します。文章を読み、著者の考えを要約または説明させる設問と、それを踏まえて自分の考えを述べる設問を出題します。著者の考えを要約または説明させる設問においては、文章を要約できる理解力、論理的な明晰さ、段落分けなど文章構成の明確さを中心に評価します。著者の考えを踏まえて自分の考えを述べる設問においては、論理的整合性、与

えられた著者の考えとの対比・関連の明快さ、社会科学や社会の出来事に関連する知識の豊かさを中心に評価します。

- ・学習への意欲や可能性を調べるために、面接を課します。

#### (5) 夜間主コース入試

- ・人物・学業ともに優れ、社会科学に広く関心をもち、積極的に学習する意欲をもっているかを調べるために、小論文と面接を課します。小論文においては、文章を読み、著者の考えを要約または説明させる設問と、それを踏まえて自分の考えを述べる設問を出題します。著者の考えを要約または説明させる設問においては、文章を要約できる理解力、論理的な明晰さ、段落分けなど文章構成の明確さを中心に評価します。著者の考えを踏まえて自分の考えを述べる設問においては、論理的整合性、与えられた著者の考えとの対比・関連の明快さ、社会科学や社会の出来事に関連する知識の豊かさを中心に評価します。

### 3 教育学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

**教育学部では、次のような人に育つことを期待します。**

教育学部は幼稚園(認定こども園を含む)・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校など、様々な学校で活躍する教員を育成するための学部です。教育学部における学びを通じて、確かな学力を有した力量ある質の高い教員に育つことを目標とします。そのために必要な資質・能力として、まず、豊かな人間性や社会性、主体的に行動する態度、常に学び続ける姿勢などが育まれることを期待します。その上で、教育の場で出会う多様な人々との関りの中で問題を解決していく力と、各教科・諸学に関する高い専門性と教員としての幅広い知識・実践力という二つの力量を統合させた人材が育成されることを期待します。

**教育学部では、次のような知識の修得、能力の獲得などを目指した教育を行います。**

- ① 人文学・社会科学・自然科学を通じた幅広い教養・知識
- ② 教育にたずさわる人が身につけておくべき幅広い基礎知識
- ③ 教育の諸分野(教育に関する諸分野・各教科に関する様々な学問)に関する専門的な知識・技能
- ④ 問題の答えを主体的に探し求めるのに必要な思考力・判断力・表現力
- ⑤ 教育の場における高度な実践的指導力
- ⑥ 豊かな人間性を有し、多様な人々との相互理解を通じて協働できる人間力

**教育学部では、次のような人が入学することを望んでいます。**

- ① 幼児・児童・生徒の個性を伸ばし、社会を生き抜く力をはぐくむ教職への意欲・情熱・使命感がある人
- ② 幅広い教育に対する問題への関心の中に、自分の探求したい得意分野がある人
- ③ コミュニケーション能力や表現力が豊かで、相手の立場に立って考え、周囲と協調して行動できる人
- ④ 高等学校までに学ぶべき事項を幅広く修得し、入学後、専門的な知識・技能を理論と実践の両面にわたって修得するために必要な、諸教科の学力や実技能力を有している人
- ⑤ 入学後の学修において必要となる、様々な諸問題に柔軟に対応できるだけの確かな学力を有している人

**教育学部では、広く全国の高等学校卒業者、外国人留学生などの中から、学士課程教育を受ける適性のある人を積極的に受け入れます。多様な入学者を受け入れるため、それぞれの条件を考慮して以下のような複数の入学試験を実施します。**

#### (1) 一般入試（前期日程）

- ・高等学校における学習状況等を記載した出身学校長作成の「調査書」を選抜の基礎資料とします。
- ・基礎的な学力を調べるために大学入試センター試験を課します。
- ・専門教育の基礎となる学力を調べるために、専門領域に応じて国語、数学、理科、外国語等の教科についての試験を課す課程・コース・専修等もあります。

- ・音楽、美術、保健体育の能力を調べるために実技検査を課す課程・コース・専修等もあります。
  - ・小論文を課す課程・コース・専修等もあります。小論文では社会的事象に対する関心、論理的思考力等を評価します。
  - ・面接を課す課程・コース・専修等もあります。面接ではそれぞれの専門に関する関心、知識、理解等を確認します。
- (2) 推薦入試
- ・高等学校における学習状況等を記載した出身学校長作成の「推薦書」「調査書」と「各種調書」を選抜の基礎資料とします。
  - ・基礎的な学力を調べるために大学入試センター試験を課す課程・コース・専修等もあります。
  - ・小論文を課す課程・コース・専修等もあります。小論文では思考力、理解力、表現力等を確認します。
  - ・面接を課します。面接ではそれぞれの専門に関する関心、知識、理解等を確認します。
  - ・音楽、美術、保健体育の能力を調べるために実技検査を課す課程・コース・専修等もあります。
- (3) 私費外国人留学生入試
- ・出身学校における学習状況等を記載した出身学校長作成の「修了証明書及び成績証明書等」を選抜の基礎資料とします。
  - ・基礎的な学力を調べるために「日本留学試験」(日本語、数学、総合科目または理科)を課します。
  - ・専門教育の基礎となる学力を調べるために、課程・コース・専修等及び専門領域に応じて、国語、数学、理科、外国語等の教科についての試験を課します。
  - ・音楽、美術、保健体育の能力を調べるために実技検査を課す課程・コース・専修等もあります。
  - ・小論文を課す課程・コース・専修等もあります。小論文では社会的事象に対する関心、論理的思考力等を評価します。
  - ・面接を課します。面接では志望の動機等を確認し、特に日本語能力を重視します。
  - ・専門領域に対する知識・理解、学習意欲を確認するために面接を課す課程・コース・専修等もあります。

#### 4 理学部の入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

**理学部では、次のような人を育成することを目指しています。**

理学とは広く数学・物理・化学・生物・地学にわたる自然科学を対象として、その謎を解き明かし、自然現象の把握に有効な概念を確立し、その現象を支配する法則を発見し、それを活用・応用していく英知を持って広く社会の進歩に貢献することを目指す学問分野です。埼玉大学理学部には、これらの基礎的な自然科学分野を網羅し、その関連性も重視した5学科(数学科・物理学科・基礎化学科・分子生物学科・生体制御学科)が設置されています。

理学部では、学士課程学生(以下、学生)が、自らが専攻する専門分野を、基礎から応用へ向けて段階的に学び、専門知識と思考力・探求力・問題発見および解決力を修得・獲得することを目指します。また理学部では、学生が専攻する専門分野を超えて、広く自然科学分野の知識と思考力を修得し、加えて人文学、社会科学、現代テクノロジー分野についても幅広い基本的知識を身につけ、自らが修得した知識を活用できる汎用的な能力や国内外の人々とのコミュニケーション能力を身につけた人材を育成することを目指しています。

理学部では、このような知識を修得し、能力・技能を獲得した学生が社会の様々な分野に進出したのちに客観的な判断力と合理的な決断力を発揮できる人材として活躍すること、あるいはさらに大学院に進み、高度な研究環境のもとでさらなる研究能力の向上に研鑽し、その学問分野の理解を深め、研究者や高度専門職業人として社会をリードし、中核となって活躍する人材として成長することを期待します。

**理学部では、次のような知識の修得、能力などの獲得を目指した教育を行います。**

理学部では入学した学生を、「育成したい人材像」に向けて育成するために、以下の知識・能力・技能を修得・獲得するための教育を行います。

- ① 自然科学の専門分野に対する十分な知識と思考力、問題発見および解決能力  
学生が所属する学科が開講する講義・実験・演習・実習等授業を受講し、専攻する専門分野を基礎から応用へ向けて段階的に学ぶことにより、専門知識と思考力・探求力・問題解決力・分析力を高度に深化・育成する教育を行います。
- ② 自然科学に対する幅広い基礎知識  
専攻する専門分野を超えて、理学部他学科等が開講する授業を受講することにより、広く自然科学に関する知識とそれを踏まえた思考力を修得する教育を行います。
- ③ 人文学、社会科学、現代テクノロジー、情報機器に関する基本的理解・技能  
埼玉大学基盤科目群の授業等を受講することにより、社会人として身につけておくべき基礎知識・技能の修得、またそれを生かした思考力を育成する教育を行います。
- ④ 知識を活用できる汎用的な能力、国内外の人々との確に意思疎通できるコミュニケーション能力  
理学部や各学科が開講する関連授業を受講することにより、理工系人材として、専門知識以外の身につけるべき能力の獲得と向上を目指す教育を行います。

**理学部では、次のような人が入学することを期待します。**

自然科学の各分野に関わり、強い知的好奇心と探求心を有することは、学士課程で理学を学び、継続的に自己を磨き進化させていくための原動力です。埼玉大学理学部で学ぼうとする皆さんには入学時において、

- ① 自然科学の学問分野に関心を持ち、その分野の専門知識を主体的に学習し、修得することに強い好奇心と熱意をもっていること。
- ② 「理学部の入学者受入れの方針」に書かれた理念に共感するとともに、その方針に従い学修に努め、将来、学士あるいは修士・博士課程を修めた、自然科学分野の専門性を有する社会人として、様々な分野で社会に貢献しようとする志をもっていること。  
これらに加えて、入学までに身につけておいてほしいことは以下の点です。
- ③ 入学後の理学部各学科での学修で必要となる理科、数学について、高等学校学習指導要領に基づき「学ぶべき事項」を幅広く修得していること。加えて、英語・国語は自然科学の研究活動における国際的な共通言語として、また論理的な文章の作成のための素養として不可欠であり、これらの語学能力を今後さらに発展させるために十分な基礎力を入学時に有すること。
- ④ 高等学校における理科・数学に関わる実験・演習、もしくは課外活動は、自然科学を学ぶ上で必要な論理的思考力や分析力・判断力を育くむために有効な取り組みです。加えて、協働して実験・演習などの課題に取り組む経験はコミュニケーション能力の向上に有効であり、また、実験や実習・演習の過程・成果を説明・記述する作業は、表現力の向上に役に立つと考えられることから、これらの諸活動に積極的に参加することを推奨します。

理学部では、広く全国の高等学校卒業生、外国人留学生などの中から、上記の育成目標を踏まえ、そのための学士課程教育を受ける適性のある人を積極的に受け入れます。多様な入学者を受け入れるため、それぞれの条件を考慮して以下のような複数の入学試験を実施します。

(1) 一般入試（前期日程）

- ・高校において修得した基礎的な学力を調べるために大学入試センター試験5教科7科目を課します。
- ・各学科における専門分野に関わる教育の基礎となり、かつ専門分野以外の学士課程教育を受けるにあたり、求められる学力を調べるために、各学科受験生に向けて個別学力試験として「総合問題」等を課します。学科ごとに、その専門分野に関連した自然科学の内容について、論述式解答を求める出題を中心として、知識力・理解力を問うと共に、解答に至るまでの論理的な考え方、解答における表現力も評価します。また、英語の読解力と記述力が要求される場合もあります。
- ・高等学校における学習・課外活動状況等を記載した出身学校長作成の「調査書」を選抜の基礎資料とします。

(2) 一般入試（後期日程）

- ・高校において修得した基礎的な学力を調べるために大学入試センター試験 5 教科 7 科目を課します。
- ・各学科における専門分野に関わる教育の基礎となり、かつ専門分野以外の学士課程教育を受けるにあたり、求められる学力を調べるために、数学、理科（物理、化学、生物）の教科（組み合わせは学科により異なります）についての個別学力試験を課します。
- ・高等学校における学習・課外活動状況等を記載した出身学校長作成の「調査書」を選抜の基礎資料とします。

(3) 推薦入試

- ・高等学校における学習・課外活動状況等を記載した出身学校長作成の「調査書」を選抜の基礎資料とします。
- ・高校において修得した数学・理科及び英語の基礎的な学力を検査するために大学入試センター試験 3 教科 5 科目を課します。
- ・学士課程で自らが志す専門分野を学ぶにあたっての意欲・好奇心、主体的に学修に取り組む態度、表現力ならびにコミュニケーション能力を評価するために面接を課します。

(4) 私費外国人留学生入試

- ・出身学校における学習・課外活動状況等を記載した出身学校長作成の「成績証明書等」などの出願時に提出された資料を面接の際に活用し、総合的判断に用います。
- ・基礎的な学力を調べるために「日本留学試験」（日本語、数学、理科）を課します。
- ・専門教育の基礎となる学力を調べるために、個別学力試験を課します。
- ・面接を課し、一般的学力（高等学校卒業レベル）・語学力を確認します。また、学士課程で自らが志す専門分野を学ぶにあたっての意欲・好奇心、主体的に学修に取り組む態度、表現力ならびにコミュニケーション能力を評価します。加えて理解力、論理的思考力を確認します。

## 5 工学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

工学部では、次のような人を育成することを目指しています。

工学部は、自然科学、人文・社会科学等に対する幅広い教養と知識を有し、専門分野における十分な知識と能力を備え、次代の我が国及び世界の産業社会を担う優れた技術者を養成することを目的としており、機械工学・システムデザイン学科、電気電子物理工学科、情報工学科、応用化学科、環境社会デザイン学科の5つの専門教育プログラム（学科）で構成されています。また、専門教育において修得した基礎的な知識・能力を活かして、大学院に進学し、高度技術者、研究者への道を歩むための能力を身に付けるとともに、豊かな教養と社会的責任を自覚できる倫理観を有し、実践的な企画・立案ができる人材を育てることを目指しています。

工学部では、次のような知識、能力などの修得を目指した教育を行います。

- ① 人文・社会科学に対する幅広い教養と知識
- ② 工学の基礎及び各専門分野における十分な知識と能力
- ③ 課題を探究・発見し解決する実践的能力
- ④ 国際的視野とコミュニケーション能力
- ⑤ 多様な人々と協調し、主体的に行動する資質
- ⑥ 科学技術が社会や自然に及ぼす影響、技術者・研究者の社会的責任を理解できる倫理観

工学部では、次のような人が入学することを望んでいます。

- ① 高等学校までに学ぶべき事項を幅広く修得しているとともに、入学後の学修において特に必要となる数学、理科、英語の基礎学力を有している人
- ② 国際的なプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を修得するために必要な基礎学力を有している人
- ③ 知識を応用問題に活かすために、論理的思考ができる人
- ④ 工学の問題に関して知的好奇心が旺盛で、自ら学ぼうとする学習意欲のある人
- ⑤ 専門技術者として、グローバルな視点に立って国際社会に貢献する意欲のある人

- ⑥ 問題を整理し、解決方法を見出して、それを実践する意欲を有する人
- ⑦ 幅広い分野・世代の人との議論および共同作業によって目的を達成する意欲を有する人

工学部では、広く全国の高等学校卒業生、帰国子女、外国人留学生などの中から、学士課程教育を受ける適性のある人を積極的に受け入れます。多様な入学生を受け入れるため、それぞれの条件を考慮して以下のような複数の入学試験を実施します。

(1) 一般入試（前期日程）

- ・高等学校における課外活動・学習状況等を記載した出身学校長作成の「調査書」を選抜の基礎資料とします。
- ・基礎的な知識および思考力を調べるために大学入試センター試験を課します。
- ・表現力、主体性を総合的に調べるために、小論文を課します。
- ・4学科では、専門教育の基礎として必要な学力を調べるために、数学の教科についての試験を課します。
- ・1学科では、専門基礎知識、理解力、論理的思考力を総合的に調べるために、総合問題を課します。

(2) 一般入試（後期日程）

- ・高等学校における課外活動・学習状況等を記載した出身学校長作成の「調査書」を選抜の基礎資料とします。
- ・基礎的な知識および思考力を調べるために大学入試センター試験を課します。
- ・専門教育の基礎として必要な知識、および理解力、論理的思考力、表現力を調べるために、数学と理科の教科についての試験を課します。

(3) アドミッション・オフィス入試

- ・埼玉大学の授業を受講させ、授業時に出题される課題に対するレポート、授業終了時に行われる小テストを課します。レポートや小テストでは、高等学校において身につけた知識と、授業内容に対する理解力および文章表現力を確認します。
- ・面接を課します。面接では、数学・英語の基礎学力に加えて、プレゼンテーション及びコミュニケーション能力ならびに主体性を評価します。
- ・選抜は、高等学校における学習状況を記載した出身学校長作成の「調査書」、「志望の理由」、毎回の講義終了時の小テスト、課題に対するレポート及び面接により総合的に行います。

(4) 推薦入試

- ・高等学校における学習状況を記載した出身学校長作成の「推薦書」・「調査書」と「志望の理由」・「自己アピール」・「活動実績」を選抜の基礎資料とします。
- ・面接を課します。面接では、表現力、コミュニケーション能力、主体性、多様性を重視します。
- ・数学、英語、理科の基礎知識と思考力を検査するために大学入試センター試験を課します。
- ・小論文を課します。小論文では理解力、論理的な思考力や表現力などを評価します。

(5) 帰国子女入試

- ・出身学校における課外活動・学習状況等を記載した出身学校長作成の「成績証明書等」などの出願時に提出された資料を面接の際に活用し、総合的判断に用います。
- ・専門教育の基礎として必要な学力を調べるために、数学の教科についての試験を課します。
- ・面接を課します。面接では、理解力、論理的思考力、主体性、表現力、及び一般的学力（高等学校卒業レベル）と語学力を確認します。

(6) 私費外国人留学生入試

- ・出身学校における学習状況等を記載した出身学校長作成の「修了証明書及び成績証明書等」などの出願時に提出された資料を面接の際に活用し、総合的判断に用います。
- ・基礎的な学力を調べるために「日本留学試験」（日本語、数学、理科）を課します。
- ・3学科では、専門教育の基礎として必要な学力を調べるために、数学の教科についての試験を課します。
- ・面接を課します。面接では、理解力、論理的思考力、主体性、表現力、及び一般的学力（高等学校卒業レベル）と語学力を確認します。

## IV 一般入試

### 1 出願資格

学校教育法第90条の規定により大学の入学資格を有する者又は大学入学の前までに入学資格を有することとなる見込みの者で、かつ、令和2年度大学入試センター試験のうち、志望する学部・学科等が指定する教科・科目（15頁～40頁を参照）のすべてを受験した者。

なお、第1解答科目で本学が指定していない科目を受験した場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定する科目を受験しても、個別学力検査等の受験はできない。

### 2 募集方法等

#### A 分離分割方式及び併願について

- (1) 教養学部、経済学部（昼間コース）、理学部、工学部は、分離分割方式の「前期日程」と「後期日程」とに分けて募集し、各日程ごとに合格者を決定します。  
教育学部は、分離分割方式の「前期日程」のみ募集し、合格者を決定します。

※ 経済学部（夜間主コース）は、社会人入試で募集します。（内容については58頁を参照のこと。）

- (2) 学内併願

本学の前期日程の学部・学科等と後期日程の学部・学科等との併願は、すべて可能とします。

- (3) 国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。）の併願について  
※公立大学協会ホームページ（<http://www.kodaikyo.org/?cat=26>）

併願できる組合せ	「前期－後期－中期」
併願できない組合せ	「前期－前期」、「後期－後期」、 「中期－中期」





B 大学入試センター試験及び個別学力検査等の出題教科・科目、配点等

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験		個別学力検査等	
		教科科目名等	利用方法	教科等	科目名等
教養学部 教養学科	前期	国語	国語	必須	外国語 英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）
		地歴	世界史B、日本史B、地理B	左の7科目の中から2科目選択（※）「公民」から2科目選択はできない。	
		公民	現代社会、倫理、政治・経済、『倫理、政治・経済』		
		数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須	
		理科	物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎（物理、化学、生物、地学）	左の「基礎を付した科目」から2科目選択、または「基礎を付していない科目」の中から2科目選択	
		外国語	英語（リスニングを含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	左の5科目の中から1科目選択	
		〔5教科8科目〕又は〔6教科8科目〕			
	後期	前期日程と同じ		その他	小論文（理解力、論理的な考察力・構成力、表現力を判定する。）

（注1） 「基礎を付した科目」とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指す。

（注2） 「基礎を付していない科目」とは、物理、化学、生物、地学を指す。

（注3） 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎の4科目の中から2科目と、物理、化学、生物、地学の4科目の中から1科目選択した場合には、基礎を付した2科目を利用する。

（注4） 物理、化学、生物、地学の4科目から2科目を選択した場合には、合計得点（200点満点）を100点満点に換算して利用する。

学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										特別入試	2段階選抜	
	試験の区分	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	総合問題	実技	面接			配点合計
前期	センター試験	200	100	100	100	200 (注2)					900	推薦 帰国子女 私費	実施しない
			100	100									
	個別学力検査					300					300		
計	200	200	200	100	500					1200			
後期	センター試験	200	100	100	100	300 (注3)					1000		
			100	100									
	個別学力検査					200					200		
計	200	200	200	100	300	200				1200			

(注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。

(注2) 前期試験においてセンター試験の外国語で英語を選択した場合、

「〔筆記(200点)+リスニング(50点)]×0.8=200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。

なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。

(注3) 後期試験において、センター試験の外国語で英語を選択した場合、

「〔筆記(200点)+リスニング(50点)]×1.2=300点」とする。

英語以外を選択した場合は、「筆記(200点)×1.5=300点」とする。

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験		個別学力検査等		
		教科科目名等	利用方法	教科等	科目名等	
経済学部 (昼間コース) 経済学科	前期 (国際プログラム枠)	国語	国語	必須	その他 小論文(国内外の社会に関する関心と論理的思考力、表現力を評価する)	
		地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	左の4科目の中から1科目選択 (※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。		
		公民 (注6)	『倫理、政治・経済』			
		外国語 (注4)	英語(リスニングを含む)			
		〔2教科2科目〕又は〔3教科3科目〕(注5)				
	前期 (一般入試枠)	国語	国語	必須	国語	国語総合・国語表現・現代文B(近代以降の文章)
		地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	左の5科目の中から2科目選択 (※)公民から2科目選択することはできない。	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(数列、ベクトル)
		公民 (注6)	現代社会, 『倫理、政治・経済』			
		数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須		
		理科	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学	左の「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目選択 「基礎を付した科目」を2科目及び「基礎を付していない科目」を1科目受験した場合、「基礎を付した科目」の成績を採用する。 「基礎を付していない科目」を2科目選択した場合、「第1解答科目」の成績を採用する。	外国語	英語(コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ)
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択		
	〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕, 〔6教科8科目〕			上記の3教科から2教科選択する。		
	後期	前期日程(一般入試枠)と同じ			その他	小論文(論理的思考力、表現力を評価する)

- (注1) 経済学部(夜間主コース)は、社会人入試(入学定員15人)で募集する。  
(注2) 「基礎を付した科目」とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指す。  
(注3) 「基礎を付していない科目」とは、物理、化学、生物、地学を指す。  
(注4) 前期(国際プログラム枠)において、英語力検定試験(TOEFL iBT(ITPを含む), IELTS(アカデミック・モジュール), TOEIC(IPを含む), GTEC(4技能版のオフィシャルスコアに限る、CBTタイプも可)のいずれか)を受験した場合は、出願時にTOEFL, IELTS, TOEIC, GTECの成績証明書を提出できる。  
その成績をセンター試験(英語)の成績に換算して採用する。英語力検定試験とセンター試験(英語)の両方を受験した場合、あるいは英語力検定試験のうち複数の試験を受験した場合は、高得点の方を採用する。  
(注5) 英語力検定試験の成績証明書を提出した場合は、外国語を受験せずに2教科2科目で受験することが可能である。  
(注6) 『倫理』および『政治・経済』のいずれかを指すものではなく、『倫理、政治・経済』の1科目を指す。

学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別入試	2段階選抜
	試験の区分	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	総合問題	実技	面接	配点合計		
前期（国際プログラム枠）	センター試験	150 （近代以降の文章） 50 （古文・漢文）	200								800	推薦私費	実施しない
	個別学力検査						200			200			
	計	200	200			400	200			1000			
前期（一般入試枠）	センター試験	200	100	100		100					900		
	個別学力検査	*250 （注3）									500		
	計	*450	200	*450	100	*450					1400		
後期	センター試験Ⅰ （注4）	100	50	150		50					900		
	個別学力検査		50	150							300		
	計	100	100	300	50	350	300				1200		
	センター試験Ⅱ （注4）	300	50	50		50					900		
	個別学力検査		50	50							300		
計	300	100	100	50	350	300				1200			

- (注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。  
(注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、「〔筆記（200点）＋リスニング（50点）〕×0.8＝200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。  
なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。  
(注3) 個別学力検査は、国語・数学・外国語の3教科から2教科を出願時に選択し受験する。なお、3教科の得点については、中央値補正法による調整を行う。  
(注4) 経済学部の後期日程は、ⅠとⅡの方式で採点し、高得点の方を採用する。Ⅰ・Ⅱともセンター試験の外国語で英語を選択した場合、「筆記（200点）×1.5＋リスニング（50点）＝350点」とする。  
英語以外を選択した場合は「〔筆記（200点）×1.75＝350点〕とする。  
(注5) センター試験の外国語（英語）の配点は、「〔筆記（200点）＋リスニング（50点）〕×1.6＝400点」とする。

経済学部「国際プログラム枠」入試換算表

TOEFL iBT	TOEIC	TOEFL iBT	TOEIC	TOEFL iBT	TOEIC	IELTS	TOEIC
120	990	94	830	68	644	9.0	990
119	990	93	825	67	635	8.5	990
118	990	92	816	66	629	8.0	990
117	990	91	807	65	624	7.5	990
116	990	90	802	64	609	7.0	882
115	990	89	796	63	595	6.5	807
114	990	88	787	62	592	6.0	730
113	990	87	779	61	586	5.5	652
112	990	86	773	60	578	5.0	578
111	989	85	767	59	572	4.5	480
110	980	84	764	58	566	4.0	443
109	966	83	753	57	552		
108	951	82	739	56	537		
107	945	81	736	55	529		
106	940	80	730	54	526		
105	922	79	727	53	520		
104	911	78	721	52	506		
103	908	77	716	51	491		
102	902	76	707	50	480		
101	894	75	693	49	477		
100	882	74	687	48	471		
99	865	73	681	47	463		
98	859	72	675	46	451		
97	853	71	667	45	443		
96	845	70	652				
95	836	69	649				
GTEC	TOEIC						
1400	990						
1345-1399	990						
1293-1344	882						
1241-1292	807						
1189-1240	730						
1131-1188	652						
1074-1130	578						
1017-1073	480						
960-1016	443						

※TOEICスコアから大学入試センター試験（英語）への換算は、経済学部1年生のデータを用いて行い、換算にあたっては偏差値を用いる。  
TOEFL、IELTS及びGTECのスコアは、換算表に従いTOEICへ換算する。

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験			個別学力検査等		
		教科科目名等		利用方法	教科等	科目名等	
教育学部 学校教育教員養成課程	文系 小学校コース	前期	国語	国語	必須	外国語	英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）
			地歴	世界史B、日本史B、地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目、「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択（19頁（注4）参照）		
			公民	現代社会、倫理、政治・経済、『倫理、政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目、「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択		
			理科	物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎 物理、化学、生物、地学	上記の①もしくは②のパターンを選択する。（19頁（注3）の①、②参照）  （※）「公民」から2科目選択はできない		
			数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須		
			外国語	英語（リスニングを含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	左の5科目の中から1科目選択		
			〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕、〔6教科7科目〕、〔6教科8科目〕				
	理系	前期	国語	国語	必須	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B（数列、ベクトル）
			地歴	世界史B、日本史B、地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目、「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択（19頁（注4）参照）		
			公民	現代社会、倫理、政治・経済、『倫理、政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目、「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択		
			理科	物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎 物理、化学、生物、地学	上記の①もしくは②のパターンを選択する。（19頁（注3）の①、②参照）  （※）「公民」から2科目選択はできない		
			数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須		
			外国語	英語（リスニングを含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	左の5科目の中から1科目選択		
			〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕、〔6教科7科目〕、〔6教科8科目〕				
〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕、〔6教科7科目〕、〔6教科8科目〕				理科	①物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、地学基礎・地学の4科目から1科目 ②物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎の4科目から1科目  計2科目選択 ただし、①のグループから選択する科目の分野と②のグループから選択する科目の分野は異なること。		
〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕、〔6教科7科目〕、〔6教科8科目〕				上記の2教科から1教科選択する。			

- (注1) 「基礎を付した科目」とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指す。  
(注2) 「基礎を付していない科目」とは、物理、化学、生物、地学を指す。  
(注3) 本学が指定する科目数を超過受験した場合の成績採用方法は、下記の通りとする。  
① 「地歴及び公民」から2科目、「基礎を付した科目」から2科目、「基礎を付していない科目」から1科目を受験した場合は、「地歴及び公民」の「第1解答科目」の成績を採用し、他は高得点の科目の成績を採用する。  
② 「地歴及び公民」から2科目、「基礎を付していない科目」から2科目を受験した場合は、「地歴及び公民」並びに「基礎を付していない科目」の「第1解答科目」の成績を採用し、他は高得点の科目の成績を採用する。  
③ 「基礎を付した科目」から2科目、「基礎を付していない科目」から1科目を受験した場合は、高得点の科目の成績を採用する。  
④ 「基礎を付していない科目」から2科目受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。  
⑤ 「地歴及び公民」から2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。  
(注4) 「理科」の「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目の合計3科目選択する場合、同一名称を付した科目（例：「物理基礎」と「物理」など）を選択することができる。

学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												特別入試	2段階選抜			
	試験の区分	国語	地歴・公民		数学	理科		外国語	小論文	総合問題	実技	面接			配点合計		
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900	推薦と私費の募集単位は、2頁を参照すること。	実施しない		
					100												
	個別学力検査							500					500				
計	200	*100	*100	200	*100	*100	700					1400					
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900			推薦と私費の募集単位は、2頁を参照すること。	実施しない
					100												
	個別学力検査				500 (注3)		500 (注3)						500				
計	200	*100	*100	700 または 200	*600 または *100	*600 または *100	200					1400					

- (注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。選択教科には\*印を付した。令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。
- (注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、「[筆記(200点)+リスニング(50点)]×0.8=200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。
- (注3) 個別学力検査は、数学・理科の2教科から1教科を出願時に選択し受験する。なお、2教科の得点については、中央値補正法による調整を行う。

学部・学科等名		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験				個別学力検査等									
			教科科目名等			利用方法	教科等	科目名等								
教育学部	学校教育教員養成課程	音楽	前期	国語	国語	必須	その他	実技検査								
				地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択 (19頁(注4)参照)										
				公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択										
				理科	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学	上記の①もしくは②のパターンを選択する。(19頁(注3)の①、②参照)  (※)「公民」から2科目選択はできない										
				数学	数学I・数学A, 数学II・数学B	左の2科目必須										
				外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択										
				[5教科7科目], [5教科8科目], [6教科7科目], [6教科8科目]												
				図画工作	前期	国語			国語	必須	その他	実技検査				
						地歴			世界史B, 日本史B, 地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択 (19頁(注4)参照)						
						公民			現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択						
						理科			物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学	上記の①もしくは②のパターンを選択する。(19頁(注3)の①、②参照)  (※)「公民」から2科目選択はできない						
						数学			数学I・数学A, 数学II・数学B	左の2科目必須						
						外国語			英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択						
						[5教科7科目], [5教科8科目], [6教科7科目], [6教科8科目]										
						体育			前期	国語			国語	必須	その他	実技検査
										地歴			世界史B, 日本史B, 地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択 (19頁(注4)参照)		
										公民			現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択		
										理科			物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学	上記の①もしくは②のパターンを選択する。(19頁(注3)の①、②参照)  (※)「公民」から2科目選択はできない		
数学	数学I・数学A, 数学II・数学B	左の2科目必須														
外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択														
[5教科7科目], [5教科8科目], [6教科7科目], [6教科8科目]																

(注1) 「基礎を付した科目」とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指す。

(注2) 「基礎を付していない科目」とは、物理、化学、生物、地学を指す。

(注3) 本学が指定する科目数を超えて受験した場合の成績採用方法は、19頁の(注3)を参照すること。



学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												特別入試	2段階選抜		
	試験の区分	国語	地歴・公民		数学	理科		外国語	小論文	総合問題	実技	面接			配点合計	
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900	推薦と私費の募集単位は、2頁を参照すること。		
					100											
	個別学力検査									500		500				
計	200	*100	*100	200	*100	*100	200				500	1400				
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900		推薦と私費の募集単位は、2頁を参照すること。	
					100											
	個別学力検査									500		500				
計	200	*100	*100	200	*100	*100	200				500	1400				
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900			推薦の募集単位は参照すること。
					100											
	個別学力検査									500 (注3)		500				
計	200	*100	*100	200	*100	*100	200				500	1400				

実施しない

- (注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。選択教科には\*印を付した。  
令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。
- (注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、  
「〔筆記(200点)＋リスニング(50点)]×0.8＝200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。  
なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。
- (注3) 小学校コース実技系体育分野の配点は、第1得意種目関連250点、第2得意種目関連250点とする。

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験			個別学力検査等		
		教科科目名等		利用方法	教科等	科目名等	
教育学部 中学校コース 学校教育教員養成課程	言語文化 (国語)	前期	国語	国語	必須	国語	国語総合・国語表現・現代文B・古典B
		地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	左の「地歴及び公民」から2科目選択 (※)「公民」から2科目選択はできない			
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』				
		数学	数学I・数学A, 数学II・数学B	左の2科目必須			
		理科	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学	左の「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目選択 (19頁(注3)の③、④参照)			
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択			
		〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕, 〔6教科8科目〕					
	言語文化 (英語)	前期	国語	国語	必須	外国語	英語(コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III・英語表現I・英語表現II)
		地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択 (19頁(注4)参照)			
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』				
		理科	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学	②左の「地歴及び公民」から2科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択 上記の①もしくは②のパターンを選択する。(19頁(注3)の①、②参照) (※)「公民」から2科目選択はできない			
		数学	数学I・数学A, 数学II・数学B	左の2科目必須			
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択			
		〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕, 〔6教科8科目〕					
	社会	前期	国語	国語	必須	その他	小論文(社会的事象に対する関心、論理的思考力等を評価する。)
		地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	左の「地歴及び公民」から2科目選択 (※)「公民」から2科目選択はできない			
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』				
		数学	数学I・数学A, 数学II・数学B	左の2科目必須			
理科		物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学	左の「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目選択 (19頁(注3)の③、④参照)				
外国語		英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択				
〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕, 〔6教科8科目〕							

(注1) 「基礎を付した科目」とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指す。

(注2) 「基礎を付していない科目」とは、物理、化学、生物、地学を指す。

(注3) 本学が指定する科目数を超えて受験した場合の成績採用方法は、19頁の(注3)を参照すること。

学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別入試	2段階選抜	
	試験の区分	国語	地歴・公民		数学	理科		外国語	小論文	総合問題	実技			面接
前期	センター試験	200	100		100	100		200					900	推薦私費
			100		100									
	個別学力検査	500										500		
計	700	200		200	100		200					1400		
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900	推薦私費
					100									
	個別学力検査							500				500		
計	200	*100	*100	200	*100	*100	700					1400		
前期	センター試験	200	200		100	100		200					1100	推薦私費
			200		100									
	個別学力検査								300			300		
計	200	400		200	100		200	300				1400		

- (注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。選択教科には\*印を付した。  
令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。
- (注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、  
「〔筆記(200点)＋リスニング(50点)] × 0.8 = 200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。  
なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。

学部・学科等名		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験			個別学力検査等			
			教科科目名等		利用方法	教科等	科目名等		
教育学部	中学校コース 学校教育教員養成課程	自然科学(数学)	前期	国語	国語	必須	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(数列、ベクトル)	
			地歴	世界史B、日本史B、地理B	左の「地歴及び公民」から1科目選択				
			公民	現代社会、倫理、政治・経済、『倫理、政治・経済』	(19頁(注3)の⑤参照)				
			数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須				
			理科	物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎 物理、化学、生物、地学	左の「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目選択 又は「基礎を付していない科目」から2科目選択 (19頁(注4)参照)				
			外国語	英語(リスニングを含む)、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	左の5科目の中から1科目選択				
		〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕							
		前期	国語	国語	必須	理科			①物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、地学基礎・地学の4科目から1科目 ②物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎の4科目から1科目 計2科目選択 ただし、①のグループから選択する科目の分野と②のグループから選択する科目の分野は異なること。
		地歴	世界史B、日本史B、地理B	左の「地歴及び公民」から1科目選択					
		公民	現代社会、倫理、政治・経済、『倫理、政治・経済』	(19頁(注3)の⑤参照)					
		数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須					
		理科	物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎 物理、化学、生物、地学	左の「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目選択 又は「基礎を付していない科目」から2科目選択 (19頁(注4)参照)					
外国語	英語(リスニングを含む)、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	左の5科目の中から1科目選択							
〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕									

- (注1) 「基礎を付した科目」とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指す。  
(注2) 「基礎を付していない科目」とは、物理、化学、生物、地学を指す。  
(注3) 本学が指定する科目数を超過して受験した場合の成績採用方法は、19頁の(注3)を参照すること。

学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別入試	2段階選抜
	試験の区分	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	総合問題	実技	面接	配点合計		
前期	センター試験	200	100	100	100	200					900	推薦私費	実施しない
				100	100								
	個別学力検査			500							500		
	計	200	100	700	200	200					1400		
前期	センター試験	200	100	100	100	200					900	推薦私費	実施しない
				100	100								
	個別学力検査			500							500		
	計	200	100	200	700	200					1400		

- (注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。選択教科には\*印を付した。  
令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。
- (注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、  
「〔筆記(200点)＋リスニング(50点)〕×0.8＝200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。  
なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験			個別学力検査等		
		教科科目名等		利用方法	教科等	科目名等	
教育学部 学校教育 教育教員養成課程	中学校コース 芸術(音楽)	前期	国語	国語	必須	その他	実技検査
		地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択 (19頁(注4)参照)			
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択 上記の①もしくは②のパターンを選択する。(19頁(注3)の①、②参照) (※)「公民」から2科目選択はできない			
		理科	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学				
		数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須			
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択			
			〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕, 〔6教科8科目〕				
	芸術(美術)	前期	国語	国語	必須	その他	実技検査
		地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択 (19頁(注4)参照)			
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択 上記の①もしくは②のパターンを選択する。(19頁(注3)の①、②参照) (※)「公民」から2科目選択はできない			
		理科	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学				
		数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須			
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択			
			〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕, 〔6教科8科目〕				
	身体文化(保健体育)	前期	国語	国語	必須	その他	実技検査
		地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択 (19頁(注4)参照)			
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択 上記の①もしくは②のパターンを選択する。(19頁(注3)の①、②参照) (※)「公民」から2科目選択はできない			
		理科	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学				
		数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須			
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択			
			〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕, 〔6教科8科目〕				

(注1) 「基礎を付した科目」とは, 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎を指す。  
(注2) 「基礎を付していない科目」とは, 物理, 化学, 生物, 地学を指す。  
(注3) 本学が指定する科目数を超えて受験した場合の成績採用方法は, 19頁の(注3)を参照すること。

学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別入試	2段階選抜			
	試験の区分	国語	地歴・公民		数学	理科		外国語	小論文	総合問題	実技			面接	配点合計	
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900	推薦私費	実施しない	
					100											
	個別学力検査										500		500			
計	200	*100	*100	200	*100	*100	200				500		1400			
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900	推薦私費		実施しない
					100											
	個別学力検査										500		500			
計	200	*100	*100	200	*100	*100	200				500		1400			
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900	推薦私費		
					100											
	個別学力検査										500 (注3)		500			
計	200	*100	*100	200	*100	*100	200				500		1400			

- (注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。選択教科には\*印を付した。  
令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。
- (注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、  
「〔筆記(200点)＋リスニング(50点)] × 0.8 = 200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。  
なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。
- (注3) 中学校コース身体文化専修保健体育分野実技の配点は、第1得意種目関連350点、第2得意種目関連150点とする。

学部・学科等名		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験			個別学力検査等	
			教科科目名等		利用方法	教科等	科目名等
教育学部	中学校コース 学校教育教員養成課程	生活創造 (技術)	国語	国語	必須	その他	面接（技術に関する口頭試問を含む。）
			地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	左の「地歴及び公民」から1科目選択		
			公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』	（19頁（注3）の⑤参照）		
			数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須		
			理科	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学	左の「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目選択 又は「基礎を付していない科目」から2科目選択 （19頁（注4）参照）		
			外国語	英語（リスニングを含む）, ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択		
		〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕					
		生活創造 (家庭科)	国語	国語	必須	外国語	英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）
			地歴	世界史B, 日本史B, 地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択 （19頁（注4）参照）		
			公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目, 「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択		
			理科	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎 物理, 化学, 生物, 地学	上記の①もしくは②のパターンを選択する。（19頁（注3）の①、②参照）  （※）「公民」から2科目選択はできない		
			数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須		
外国語	英語（リスニングを含む）, ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語		左の5科目の中から1科目選択				
〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕, 〔6教科8科目〕							

(注1) 「基礎を付した科目」とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指す。

(注2) 「基礎を付していない科目」とは、物理、化学、生物、地学を指す。

(注3) 本学が指定する科目数を超えて受験した場合の成績採用方法は、19頁の（注3）を参照すること。



学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別入試	2段階選抜		
	試験の区分	国語	地歴・公民		数学	理科		外国語	小論文	総合問題	実技			面接	配点合計
前期	センター試験	200	100		100	100		200					900	推薦私費	
					100	100									
	個別学力検査											500	500		
	計	200	100		200	200		200				500	1400		
前期	センター試験	250	*150	*150	150	*150	*150	150					1150	推薦私費	実施しない
					150										
	個別学力検査							250					250		
	計	250	*150	*150	300	*150	*150	400					1400		

- (注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。選択教科には\*印を付した。  
令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。
- (注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、  
「〔筆記(200点)＋リスニング(50点)] × 0.8 = 200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。  
なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験			個別学力検査等	
		教科科目名等		利用方法	教科等	科目名等
教育学部 乳幼児教育コース 学校教育教員養成課程	前期	国語	国語	必須	外国語	英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）
		地歴	世界史B、日本史B、地理B	左の「地歴及び公民」から2科目選択		
		公民	現代社会、倫理、政治・経済、『倫理、政治・経済』	(※)「公民」から2科目選択はできない		
数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須				
理科	物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎 物理、化学、生物、地学	左の「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目選択 (19頁(注3)の③、④参照)				
外国語	英語(リスニングを含む)、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	左の5科目の中から1科目選択				
		〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕、〔6教科7科目〕、〔6教科8科目〕				
特別支援教育コース	前期	国語	国語	必須	外国語	英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）
		地歴	世界史B、日本史B、地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目、「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択 (19頁(注4)参照)		
		公民	現代社会、倫理、政治・経済、『倫理、政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目、「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択		
		理科	物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎 物理、化学、生物、地学	上記の①もしくは②のパターンを選択する。(19頁(注3)の①、②参照)  (※)「公民」から2科目選択はできない		
		数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須		
		外国語	英語(リスニングを含む)、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	左の5科目の中から1科目選択		
		〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕、〔6教科7科目〕、〔6教科8科目〕				
養護教諭養成課程	前期	国語	国語	必須	その他	面接(保健に関する口頭試問を含む。)
		地歴	世界史B、日本史B、地理B	①左の「地歴及び公民」から1科目、「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない科目」から2科目』選択 (19頁(注4)参照)		
		公民	現代社会、倫理、政治・経済、『倫理、政治・経済』	②左の「地歴及び公民」から2科目、「理科」の『「基礎を付した科目」から2科目又は「基礎を付していない科目」から1科目』選択		
		理科	物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎 物理、化学、生物、地学	上記の①もしくは②のパターンを選択する。(19頁(注3)の①、②参照)  (※)「公民」から2科目選択はできない		
		数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須		
		外国語	英語(リスニングを含む)、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	左の5科目の中から1科目選択		
		〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕、〔6教科7科目〕、〔6教科8科目〕				

(注1) 「基礎を付した科目」とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指す。

(注2) 「基礎を付していない科目」とは、物理、化学、生物、地学を指す。

(注3) 本学が指定する科目数を超過して受験した場合の成績採用方法は、19頁の(注3)を参照すること。

学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別入試	2段階選抜	
	試験の区分	国語	地歴・公民		数学	理科		外国語	小論文	総合問題	実技			面接
前期	センター試験	200	100		100	100		200					900	推薦私費
			100		100									
	個別学力検査							500				500		
計	200	200		200	100		700					1400		
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900	推薦私費
					100									
	個別学力検査							500				500		
計	200	*100	*100	200	*100	*100	700					1400		
前期	センター試験	200	*100	*100	100	*100	*100	200					900	推薦私費
					100									
	個別学力検査										500	500		
計	200	*100	*100	200	*100	*100	200				500	1400		

実施しない

- (注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。選択教科には\*印を付した。  
令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。
- (注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、  
「[筆記(200点) + リスニング(50点)] × 0.8 = 200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。  
なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験			個別学力検査等		
		教科科目名等		利用方法	教科等	科目名等	
理学部 数学科	前期	国語	国語	必須	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列, ベクトル)	
		地歴	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B	左の10科目の中から1科目選択(※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。			
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』				
		数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須			
		理科	物理, 化学, 生物, 地学	左の4科目の中から2科目選択			
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語 〔5教科7科目〕	左の5科目の中から1科目選択			
		後期	前期日程と同じ				数学
	物理学科	前期	国語	国語	必須	その他	総合問題(物理, 数学及び英語に関する総合問題を出題する。前提とする物理及び数学の知識は, それぞれ高等学校における物理基礎・物理及び数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B(数列, ベクトル)にわたる。また, 英語の読解力と記述力が要求される。)
			地歴	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B	左の10科目の中から1科目選択(※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。		
			公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』			
			数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須		
			理科	物理	必須		
				化学, 生物, 地学	左の3科目の中から1科目選択		
			外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語 〔5教科7科目〕	左の5科目の中から1科目選択		
後期	前期日程と同じ			数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列, ベクトル)		
基礎化学科	前期	国語	国語	必須	その他	総合問題(化学を中心とした自然科学の内容についての知識, 理解力, 論理的思考力, 表現力等を総合的にみる。)	
		地歴	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B	左の10科目の中から1科目選択(※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。			
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』				
		数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須			
		理科	化学	必須			
			物理, 生物, 地学	左の3科目の中から1科目選択			
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語 〔5教科7科目〕	左の5科目の中から1科目選択			
後期	前期日程と同じ			数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列, ベクトル)		
				理科	物理基礎・物理, 化学基礎・化学から1科目を選択する。		

学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別入試	2段階選抜		
	試験の区分	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	総合問題	実技	面接	配点合計				
前期	センター試験	200	100	150	100	200					1000	私費	実施しない		
				150	100										
	個別学力検査			1000							1000				
	計	200	100	1300	200	200					2000				
後期	センター試験	200	100	150	100	200					1000				
				150	100										
	個別学力検査			800	200						1000				
	計	200	100	1100	400	200					2000				
前期	センター試験	200	100	100	100	200					900			私費	実施しない
				100	100										
	個別学力検査						400				400				
	計	200	100	200	200	200		400			1300				
後期	センター試験	200	100	100	100	200					900				
				100	100										
	個別学力検査			400	400						800				
	計	200	100	600	600	200					1700				
前期	センター試験	200	100	100	100	300					1000	推薦私費	実施しない		
				100	100										
	個別学力検査						300				300				
	計	200	100	200	200	300		300			1300				
後期	センター試験	200	100	100	100	400					1100				
				100	100										
	個別学力検査			200	600						800				
	計	200	100	400	800	400					1900				

(注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。

令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。

(注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、「〔筆記(200点)＋リスニング(50点)〕×0.8＝200点」とし、

他の外国語と比較できるようにする。

なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験			個別学力検査等		
		教科科目名等		利用方法	教科等	科目名等	
理学部 分子生物学科	前期	国語	国語	必須	その他	総合問題(生物学を中心とした自然科学の内容についての知識、理解力、論理的思考力、表現力等を総合的に判定する。)	
		地歴	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B	左の10科目の中から1科目選択(※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。			
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』				
		数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須			
		理科	物理, 化学, 生物, 地学	左の4科目の中から2科目選択			
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択			
		〔5教科7科目〕					
	後期	前期日程と同じ			数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B(数列, ベクトル)	
					理科	物理基礎・物理と化学基礎・化学と生物基礎・生物から1科目を選択する。	
	生体制御学科	前期	国語	国語	必須	その他	総合問題(生物学を中心とした自然科学的内容についての理解力, 思考力, 表現力等を総合的にみる。)
			地歴	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B	左の10科目の中から1科目選択(※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。		
			公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』			
			数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須		
			理科	物理, 化学, 生物, 地学	左の4科目の中から2科目選択		
外国語			英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語	左の5科目の中から1科目選択			
〔5教科7科目〕							
後期		前期日程と同じ			理科	化学基礎・化学と生物基礎・生物から1科目を選択する。	

学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別入試	2段階選抜
	試験の区分	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	総合問題	実技	面接	配点合計		
前期	センター試験	100	100	100	200	300					1100	私費	実施しない
				100	200								
	個別学力検査							300			300		
計	100	100	200	400	300		300			1400			
後期	センター試験	200	100	100	200	300					1200		
				100	200								
	個別学力検査			200	300						500		
計	200	100	400	700	300					1700			
前期	センター試験	200	100	100	200	300					1200	私費	実施しない
				100	200								
	個別学力検査							400			400		
計	200	100	200	400	300		400			1600			
後期	センター試験	200	100	200	100	400					1300		
				200	100								
	個別学力検査				400						400		
計	200	100	400	600	400					1700			

(注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。  
 令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。

(注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、「〔筆記(200点)＋リスニング(50点)〕×0.8＝200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。  
 なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験			個別学力検査等			
		教科科目名等		利用方法	教科等	科目名等		
工学部 機械工学・システムデザイン学科	前期	国語	国語	必須 (近代以降の文章のみ利用する)	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列, ベクトル)		
		地歴	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B	左の10科目の中から1科目選択(※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。				
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』					
		数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須				
		理科	物理	必須				
			化学, 生物, 地学	左の3科目の中から1科目選択				
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語 〔5教科7科目〕	左の5科目の中から1科目選択			その他	小論文
	後期	前期日程と同じ			数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列, ベクトル)		
					理科	物理基礎・物理		
電気電子物理工学科	前期	国語	国語	必須 (近代以降の文章のみ利用する)	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列, ベクトル)		
		地歴	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B	左の10科目の中から1科目選択(※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。				
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』					
		数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須				
		理科	物理	必須				
			化学, 生物, 地学	左の3科目の中から1科目選択				
		外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語 〔5教科7科目〕	左の5科目の中から1科目選択			その他	小論文
	後期	前期日程と同じ			数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列, ベクトル)		
					理科	物理基礎・物理		
情報工学科	前期	国語	国語	必須 (近代以降の文章のみ利用する)	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列, ベクトル)		
		地歴	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B	左の10科目の中から1科目選択(※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。				
		公民	現代社会, 倫理, 政治・経済, 『倫理, 政治・経済』					
		数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須				
		理科	物理, 化学, 生物, 地学	左の4科目の中から2科目選択				
			外国語	英語(リスニングを含む), ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語 〔5教科7科目〕			左の5科目の中から1科目選択	その他
		後期	前期日程と同じ				数学	
				理科	物理基礎・物理			



学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別入試	2段階選抜
	試験の区分	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	総合問題	実技	面接	配点合計		
前期	センター試験	100	100	100	100	200					800	帰国子女 私費	実施しない
				100	100								
	個別学力検査			300			100				400		
計	100	100	500	200	200	100				1200			
後期	センター試験	100	100	100	100	200					800		
				100	100								
	個別学力検査			200	200						400		
計	100	100	400	400	200					1200			
前期	センター試験	100	100	100	100	200					800	帰国子女 私費	実施しない
				100	100								
	個別学力検査			200			100				300		
計	100	100	400	200	200	100				1100			
後期	センター試験	100	100	100	100	200					800		
				100	100								
	個別学力検査			200	200						400		
計	100	100	400	400	200					1200			
前期	センター試験	100	100	100	100	200					800	AO 帰国子女 私費	実施しない
				100	100								
	個別学力検査			300			100				400		
計	100	100	500	200	200	100				1200			
後期	センター試験	100	100	100	100	200					800		
				100	100								
	個別学力検査			300	300						600		
計	100	100	500	500	200					1400			

(注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。

令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。

(注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、「〔筆記(200点)＋リスニング(50点)]×0.8＝200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。

なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験			個別学力検査等		
		教科科目名等		利用方法	教科等	科目名等	
工学部 応用化学科	前期	国語	国語	必須 (近代以降の文章のみ利用する)	その他	総合問題（化学に関する知識、理解力、論理的思考力、計算力、および英語読解力等を総合的に評価する。）	
		地歴	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B	左の10科目の中から1科目選択(※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。			
		公民	現代社会、倫理、政治・経済、『倫理、政治・経済』				
		数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須			
		理科	化学	必須			
			物理、生物	左の2科目の中から1科目選択			
		外国語	英語(リスニングを含む)、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	左の5科目の中から1科目選択			
		〔5教科7科目〕				小論文	
	後期	前期日程と同じ			数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列、ベクトル)	
		前期日程と同じ			理科	化学基礎・化学	
	環境社会デザイン学科	前期	国語	国語	必須 (近代以降の文章のみ利用する)	その他	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列、ベクトル)
			地歴	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B	左の10科目の中から1科目選択(※)なお、地理歴史及び公民の試験時間において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。		
			公民	現代社会、倫理、政治・経済、『倫理、政治・経済』			
			数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	左の2科目必須		
理科			物理	必須			
			化学、生物、地学	左の3科目の中から1科目選択			
外国語			英語(リスニングを含む)、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語	左の5科目の中から1科目選択			
		〔5教科7科目〕				小論文	
後期		前期日程と同じ			数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B (数列、ベクトル)	
		前期日程と同じ			理科	物理基礎・物理	

学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											特別入試	2段階選抜		
	試験の区分	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	総合問題	実技	面接	配点合計				
前期	センター試験	100	100	100	200 (化学)	200					900	帰国子女 私費	実施しない		
				100	100 (物理又は生物)										
	個別学力検査					100	300			400					
計	100	100	200	300	200	100	300			1300					
後期	センター試験	100	100	100	200 (化学)	200					900				
				100	100 (物理又は生物)										
	個別学力検査			100	600					700					
計	100	100	300	900	200					1600					
前期	センター試験	100	100	100	100	200					800			推薦 帰国子女 私費	実施しない
				100	100										
	個別学力検査			200		100				300					
計	100	100	400	200	200	100				1100					
後期	センター試験	100	100	100	100	300					900				
				100	100										
	個別学力検査			200	200					400					
計	100	100	400	400	300					1300					

(注1) センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。

令和2年度大学入試センター試験の成績のみを利用する。

(注2) センター試験の外国語で英語を選択した場合、「〔筆記(200点)＋リスニング(50点)]×0.8＝200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。

なお、配点にあたっては、他の科目と同様に上記表に掲載しているセンター試験の配点に換算する。

## C 実技検査

**音楽実技** 教育学部学校教育教員養成課程小学校コース実技系音楽分野及び中学校コース芸術専修音楽分野を志望する者

### 検査項目

#### 【前期日程】

次のA)、B)、C)を全員が受験する。なお、「音楽実技検査に関する調書」を出願書類と同時に提出すること。

#### A) 声楽：次の歌曲の中から、任意の1曲を選び原語・暗譜で歌う。

- ・A. カルダラ (Caldara)作曲 : Selve amiche (ロ短調、イ短調、ト短調)
- ・F. ドゥランテ (Durante)作曲 : Vergin, tutto amor (ニ短調、ハ短調、ロ短調)
- ・A. スカルラッティ (Scarlatti) 作曲 : Sento nel core (ヘ短調、ホ短調、ニ短調)
- ・滝廉太郎作曲 山田耕筰編曲 : 秋の月 (ロ短調)

- 〔注〕①「音楽実技検査に関する調書」の所定の欄に選んだ曲名及び歌唱する調を記入すること。提出された曲及び調の変更は認めない。
- ②それぞれの歌曲について、( )内に示した調の楽譜は本学で用意する。楽譜提出の必要はない。上記以外の調で歌うことを希望する場合は、伴奏者用としてその調の楽譜を出願書類と同時に提出すること。提出の際、1頁がA4縦のサイズになるようにすること。製本しないこと。提出された楽譜は返却しない。
- ③伴奏者は、本学で用意する。
- ④演奏を途中で打ち切ることがある。

#### B) 器楽：次の1または2のどちらか1つを選択して受験する。ただし2の場合は、イとロの両方を受験すること。

1. 次の作曲家のピアノソナタの中から任意の楽章(複数でもよい)を暗譜で演奏する。複数の楽章を演奏する場合は、同一の作品から選ぶこと。演奏時間は3分以上とする。(繰り返しは省略。ただし、ダ・カーポは行うこと。)

- ・J. ハイドン
- ・W.A. モーツァルト
- ・L. van ベートーヴェン

2. 次のイとロの両方を受験する。(特にイは、受験する楽器によって課題が異なるので注意すること。)

#### イ. 次の楽器の中から1つを選び、下記の指示に従って演奏する。(音階以外は視奏も可。繰り返しは省略。)

フルート、リコーダー、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

#### 【管楽器で受験する者】

フルートで受験する者は、次の〈課題1〉と〈課題2〉を演奏する。フルート以外の管楽器で受験する者は、〈課題1〉と〈課題3〉を演奏する。

#### 〈課題1〉(管楽器共通)

任意の1つの長調、または短調の音階を2オクターヴ演奏する。(上行形と下行形を続けて暗譜で演奏する。テンポ、リズム、アーティキュレーションは自由。短調の場合は和声的短音階とする。)

#### 〈課題2〉(フルートで受験する者のみ)

E. ケーラー：「35の練習曲」op. 33 の第1巻(15 Easy Exercises)及び第2巻(12 Medium Difficult Exercises)(版は指定しない)の中から任意の曲、または同程度の練習曲、独奏曲を選び4分以上8分程度まで演奏する。(曲数は問わない。)

#### 〈課題3〉(フルート以外の管楽器で受験する者のみ)

任意の独奏曲を選び4分以上8分程度まで演奏する。(曲数は問わない。)

#### 【弦楽器で受験する者】

任意の独奏曲を選び4分以上8分程度まで演奏する。(曲数は問わない。)

- ロ. J.S. バッハ：「2声のインヴェンション」より任意の1曲をピアノで演奏する。(繰り返しは省略。暗譜とする。)

- 〔注〕①伴奏はつけない。
- ②演奏する曲の楽譜を出願書類と同時に提出すること。提出の際、1頁がA4縦のサイズになるようにすること。製本しないこと。(ピアノ及び音階の楽譜の提出は不要。提出された楽譜は返却しない。)
- ③ピアノ以外の楽器は、志願者各自が持参すること。
- ④演奏する箇所を指定することがある。
- ⑤複数曲提出した場合は、「音楽実技検査に関する調書」に記入した曲順通りに演奏すること。なお、演奏する曲目を指定することがある。
- ⑥演奏を途中で打ち切ることがある。

**C) 音楽理論**

楽典 (筆記用具を持参すること。試験時間は50分。)

**美術実技** 教育学部学校教育教員養成課程小学校コース実技系図画工作分野及び中学校コース芸術専修美術分野を志望する者

**検査項目**

**【前期日程】**

木炭による静物デッサン (試験時間：3時間) サイズ：木炭紙大

静物：卓上に置かれた単体のモチーフ

- [注] ① 画用木炭、消し具は各自持参すること。  
 ② 画板、イーゼル、木炭紙 (MBM)、下敷用紙は本学で用意する。  
 ③ はかり棒、構図フレーム等は使用してもよい。

**体育実技** 教育学部学校教育教員養成課程小学校コース実技系体育分野及び中学校コース身体文化専修保健体育分野を志望する者

**検査項目**

**【前期日程】**

下表の運動種目の実技及びスポーツ活動に関する調書

領域	種 目	第1得意種目としての内容	第2得意種目としての内容
1	陸 上 競 技	100m走、1500m走、走り幅跳び、砲丸投げ、の中から1つについて評価する。 100m走は、土のグラウンド (使用できない場合ゴムシート上) でスターティングブロックから疾走する。1500m走は、土のグラウンドで400mトラックを3周と3/4周する。走り幅跳びは、ゴムシートの助走路から、実測距離を測定する。砲丸投げは、高校用砲丸 (男子6kg、女子4kg) を投てきする。 なお、専用シューズやスパイクを使用して構わない。また、荒天の場合、屋内において異なる内容に変更することがあるが、選択内容に近い距離や検査内容とする。	100m走、1500m走、走り幅跳び、砲丸投げ、の中から1つについて評価する。 100m走は、土のグラウンド (使用できない場合ゴムシート上) でスターティングブロックから疾走する。1500m走は、土のグラウンドで400mトラックを3周と3/4周する。走り幅跳びは、ゴムシートの助走路から、実測距離を測定する。砲丸投げは、高校用砲丸 (男子6kg、女子4kg) を投てきする。 なお、専用シューズやスパイクを使用して構わない。また、荒天の場合、屋内において異なる内容に変更することがあるが、選択内容に近い距離や検査内容とする。
2	バレーボール	下記の全てを行う。 1. 2人組のパス 2. レセプション (サーブレシーブ) 3. アタック 4. ポジション別の課題 5. 4人対4人のゲーム (人数によっては、やり方を変えることがある)	下記の全てを行う。 1. オーバーハンドパス 2. アンダーハンドパス 3. アタック
	バスケットボール	バスケットボールの個人技能を観る (ディフェンスがいない状態で自分の得意なシュートいくつかを行う) パス&ランを基本としたハーフコート の3対3を行う。 パス&ランを基本としたオールコート のゲームを行う。 (人数によっては、やり方を変えることがある)	バスケットボールの個人技能1 (バックボードにボールを当てて左右に移動する回数をみる) バスケットボールの個人技能2 (ランニングシュートを左右から行う。その際両手を使うようにする) ディフェンスのいない状態で、パスを受けてから自分の得意なシュートをいくつか行う。
	サッカー	1. ボールコントロール 2. パス&コントロール 3. 「2対2」の攻防 (GK有) 4. 「4対4」のゲーム (人数によって、やり方を変えることがある)	1. パス&ボールコントロール 2. ボールコントロールからシュート

3	ダンス	<p>創作ダンス作品の演技（3分以内）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品のタイトル・テーマは自由。</li> <li>・音楽(CDに限る)を持参して使用してもよい（プレイヤーは大学で用意）。</li> <li>・衣装は自由（スカート、上着など簡単な衣装をつけてもよい）。</li> </ul>	<p>創作ダンスあるいは現代的なリズムのダンスの演技（1分30秒以内）</p> <p>*創作ダンスの演技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品のタイトル・テーマは自由</li> <li>・音楽(CDに限る)を持参して使用してもよい（プレイヤーは大学で用意）。</li> </ul> <p>*現代的なリズムのダンスの演技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロックまたはヒップホップのリズムから1つ選び、持参した音楽(CD)に合わせて踊ること（プレイヤーは大学で用意）。</li> </ul>
	器械運動	<p>マット運動、鉄棒運動のどちらか1つを選択し、5技以上で演技を構成し実施する。</p> <p>マット運動は12mのマットを往復する。鉄棒は高鉄棒を使用し、上がり技・下り技を含んで構成する。</p>	<p>マット運動において、5技で演技を構成し実施する。</p> <p>マット運動は12mのマットを往復する。</p>
<p><b>1から3の領域の中から、第1得意種目を1種目と第2得意種目を2種目選択し、合計3種目受験する。ただし、これらの3種目は異なる領域から選ばなければならない。</b></p> <p>陸上競技は、荒天の場合、屋内において異なる内容に変更することがある。 各種目の専用シューズを使用してもよい。</p>			
スポーツ活動に関する調書	<p>出身学校長の作成したスポーツ活動に関する調書（本学指定の用紙）は実技検査に併せて評価する。高等学校卒業程度認定試験合格者については、志願者本人が記載したスポーツ活動の記録（前記の調書に記入）に基づいて評価する。</p> <p>調書に記載された事項について、それを証明できる書類（大会プログラム、公式記録、新聞記事、賞状等から1点）がある場合は、その写しを添付すること。</p>		

## V 特別入試

### 1 アドミッション・オフィス(AO)入試

工 学 部
-------

#### 1) アドミッション・オフィス(AO)入試を実施する学科及び募集人員

学 科	募集人員
情報工学科	5名

#### 2) 出願資格

出願できる者は、次の各条件を全て満たす者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校の後期課程を、令和2年3月卒業見込みの者で、合格した場合に入学を確約できる者。
- (2) 高等学校又は中等教育学校の後期課程における理数系の成績（調査書中、数学（数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B、又は数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数Bの内容を含む科目）と理科の評定平均値）の平均が4.3以上であり、かつ数Ⅲの内容を含む科目及び物理の内容を含む科目（ただし、「物理基礎」は含まない）を出願時に履修している者。
- (3) 高等学校又は中等教育学校の後期課程における調査書中、学習成績概評がB以上の者。

注意事項：本AO入試と推薦入試の両方に出願することはできない。（ただし、AO入試に出願し、第1次選考で不合格となった場合には、推薦入試に出願できる。）

また、AO入試の結果、不合格となった場合は、一般入試志願者として「前期日程試験」及び「後期日程試験」に出願することができる。

ただし、AO入試で入学手続をした場合は、一般入試を受験しても合格者とはならない。

#### 3) 出願期間：令和元年9月2日（月）～令和元年9月9日（月）（期間内郵送必着）

#### 4) 選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、以下の方法により行う。

出願者が20名を超えた場合には、出願時に提出された志望の理由・調査書により第1次選考を実施し20名を選考する。

なお、第1次選考を実施した場合は、令和元年9月20日（金）に第1次合格発表を行います。

受験者（第1次選考実施の場合は、合格した受験者）に、埼玉大学構内で行なわれる「情報システム工学入門」の講義（1時間30分）を3回（令和元年10月4日、10月11日、10月18日の、各々16時20分から17時50分までの講義）受講させ、毎回の講義終了時に課題を与え翌週までに課題に対するレポートを提出させる。また、毎回の講義終了後、理解力を知るため、小テスト（20分程度）を行う。

選抜は、出願時に提出された志望の理由・調査書、毎回の講義終了時の小テスト、課題に対して提出されたレポート、及び11月16日（土）に行う面接（英語、数学の口頭試問を含む。）により総合して行う。

区分	検査日時	検査内容	配点	備考（レポート提出期限等）
講 義	令和元年10月 4日（金）	レポート	10	令和元年10月11日（金） 16時10分まで 提出先：工学部係
	講義：16時20分から17時50分 小テスト：18時から18時20分	小テスト	10	
	令和元年10月11日（金）	レポート	10	令和元年10月18日（金） 16時10分まで 提出先：工学部係
	講義：16時20分から17時50分 小テスト：18時から18時20分	小テスト	10	
	令和元年10月18日（金）	レポート	10	令和元年10月25日（金） 16時10分まで 提出先：工学部係
	講義：16時20分から17時50分 小テスト：18時から18時20分	小テスト	10	
面 接	令和元年11月16日（土） 13時から	面接	40	英語、数学の口頭試問を含む。

#### 5) 合格発表：令和元年12月3日（火）

## 2 推薦入試

### 教養学部

#### 1) 推薦入試を実施する学科及び募集人員

学 科	募集人員
教養学科	20名

#### 2) 推薦入試の対象となる高等学校及び推薦数

全国の国公私立高等学校（中等教育学校の後期課程並びに高等部を置く特別支援学校、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を含む。以下同じ。）

推薦できる者の数は、1校につき1名とする。

#### 3) 推薦対象者

以下の各条件を満たす者とする。

- (1) 高等学校の学習成績が優秀であり、学校長が責任を持って推薦できる者
- (2) 平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、合格した場合に入学を確約できる者
- (3) 調査書の全科目の評定平均値が4.3以上の者

#### <注意事項>

- (1) 国公立大学の推薦入試へ出願することができるのは、1つの大学・学部である。
- (2) 「推薦入試の選抜」の結果不合格となった者（合否未定の者を含む）は、国公立大学の「前期日程」・「後期日程」にも出願し、受験することができる。ただし、推薦入試で入学手続をした場合は、「前期日程」・「後期日程」を受験しても合格者とはならない。

4) 出願期間：令和元年11月1日（金）～ 7日（木）（期間内郵送必着）

5) 入試期日：令和元年11月16日（土）

#### 6) 選抜方法

大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、志望の理由、調査書、小論文及び面接による。

※「志望の理由」は、教養学部教養学科を志望する理由を自由に記述すること。

面接の際の資料とする。

配点	小論文	面接
	100	100

7) 合格発表：令和元年12月3日（火）



経済学部

1) 推薦入試を実施する学科及び募集人員

学 科	募集人員
経 済 学 科	15名

2) 推薦入試の対象となる高等学校及び推薦数

全国の国公立高等学校（中等教育学校の後期課程並びに高等部を置く特別支援学校、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を含む。以下同じ。）

推薦できる者の数は、1校につき2名以内とします。

3) 推薦対象者

以下の各条件を満たす者とします。

- (1) 平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、合格した場合に入学を確約できる者
- (2) 調査書中、全体の評定平均値が3.8以上の者
- (3) 次の(a)(b)のいずれかを満たす者
  - (a) 日本の小学校、中学校または高等学校に相当する1年（school year）以上の海外での学校教育（日本人学校や私立在外教育施設を含む）を受けた経験を有すること。
  - (b) 次のいずれかの英語力検定試験で、下記以上のスコアを取得した者。ただし出願時まで2年以内に受験し取得したスコアに限る。
    - ・ TOEIC 660                      ・ IELTS（アカデミック・モジュール） 5.0
    - ・ TOEFL iBT 71                      ・ GTEC（4技能版のオフィシャルスコアに限る、CBTタイプも可） 1189

<注意事項>

- (1) 国公立大学の推薦入試へ出願することができるのは、1つの大学・学部です。
- (2) 「推薦入試の選抜」の結果不合格となった者（合否未定の者を含む）は、国公立大学の「前期日程」・「後期日程」にも出願し、受験することができます。ただし、推薦入試で入学手続をした場合は、「前期日程」・「後期日程」を受験しても合格者とはならない。

4) 出願期間：令和元年11月1日（金）～ 7日（木）（期間内郵送必着）

5) 入試期日：令和元年11月16日（土）

なお、大学入試センター試験（令和2年1月18日（土）、19日（日）実施）において、必ず下記6)の必要科目を受験すること。受験しない場合は、失格となります。

6) 選抜方法

- (1) 個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、自己推薦書（志望の理由を含む）、大学入試センター試験、英語力検定試験（注）、小論文及び面接の成績による。
- (2) 大学入試センター試験の教科科目指定は以下のとおり  
 国語（近代以降の文章のみ利用する）、「世界史B、日本史B、地理B、『倫理、政治・経済』」の4科目から1科目（ただし2科目受験のときは第1解答科目に限る）、外国語〔英語（リスニングを含む）〕

配点	大学入試センター試験			小論文	面接
	国語	「世、日、地、『倫、政』」のうち1科目	英語		
	100	400	300	200	200

※センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。

(注) 出願時に TOEIC、IELTS、TOEFL、GTEC の成績証明書を提出した者（「3）推薦対象者」の（3）(a) に該当する者も提出可能）は、外国語を受験せずに2教科2科目で受験することができます。その場合、英語力検定試験のスコアを本学で定めた換算基準に基づき、大学入試センター試験（英語）の成績に換算して採用します。

なお、英語力検定試験とセンター試験（英語）の両方を受験した場合、あるいは英語力検定試験のうち複数の試験を受験した場合は、高得点の方を採用します。

7) 合格発表：令和2年2月10日（月）

教育学部

1) 推薦入試を実施する募集単位等及び募集人員

		募集単位等		募集人員		
学校教育 教員養成課程	小学校 コース	(教育学に関心を持つ者)	(注1)	62	(注3)	6
		(心理学・教育実践学に関心を持つ者)				14
		(国語教育に関心を持つ者)				2
		(英語教育に関心を持つ者)				2
		(社会科教育に関心を持つ者)				10
		(算数教育に関心を持つ者)				3
		(理科教育に関心を持つ者)				5
		(音楽教育に関心を持つ者)				5
		(図画工作教育に関心を持つ者)				3
		(体育教育に関心を持つ者)				5
		(ものづくりと情報教育に関心を持つ者)				4
		(家庭科教育に関心を持つ者)				3
		中学校 コース				言語文化専修
英語分野						
社会専修	(注1)		2			
自然科学専修	数学分野		(注2)	2	3	
	理科分野					
芸術専修	音楽分野			2	2	
	美術分野					
身体文化専修	保健体育分野			3		
生活創造専修	技術分野		(注2)	2	2	
	家庭科分野					
乳幼児教育コース				5		
特別支援教育コース		(注1)		2		
養護教諭養成課程				5		

(注1) 1/18・19に行われる大学入試センターにおいて、53頁(注2)に記載された科目を必ず受験すること。  
受験しない場合は失格となります。

(注2) 1/18・19に行われる大学入試センターにおいて、53頁(注3)に記載された科目を必ず受験すること。  
受験しない場合は失格となります。

(注3) この内訳は目安である。

(注4) 推薦入試での入学者については、以下のとおりの所属となる。

募集単位等	1年次後半以降所属
教育学に関心を持つ者	教育学専修
心理学・教育実践学に関心を持つ者	心理・教育実践学専修
国語教育に関心を持つ者	言語文化専修 国語分野
英語教育に関心を持つ者	言語文化専修 英語分野
社会科教育に関心を持つ者	社会専修
算数教育に関心を持つ者	自然科学専修 算数分野
理科教育に関心を持つ者	自然科学専修 理科分野
音楽教育に関心を持つ者	芸術専修 音楽分野
図画工作教育に関心を持つ者	芸術専修 図画工作分野
体育教育に関心を持つ者	身体文化専修 体育分野
ものづくりと情報教育に関心を持つ者	生活創造専修 ものづくりと情報分野
家庭科教育に関心を持つ者	生活創造専修 家庭科分野

## 2) 推薦入試の対象となる学校及び推薦数

全国の国公私立高等学校（中等教育学校の後期課程並びに高等部を置く特別支援学校、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を含む。以下同じ。）

推薦できる者の数は、各募集単位等（※）とも1校につき2名までとする。ただし、学校教育教員養成課程小学校コース（体育教育に関心を持つ者）及び中学校コース身体文化専修保健体育分野は、1校につき1名までとする。

※ 各募集単位等は以下のとおりである。

小学校コース（教育学に関心を持つ者）  
小学校コース（心理学・教育実践学に関心を持つ者）  
小学校コース（国語教育に関心を持つ者）  
小学校コース（英語教育に関心を持つ者）  
小学校コース（社会科教育に関心を持つ者）  
小学校コース（算数教育に関心を持つ者）  
小学校コース（理科教育に関心を持つ者）  
小学校コース（音楽教育に関心を持つ者）  
小学校コース（図画工作教育に関心を持つ者）  
小学校コース（体育教育に関心を持つ者）  
小学校コース（ものづくりと情報教育に関心を持つ者）  
小学校コース（家庭科教育に関心を持つ者）  
中学校コース 言語文化専修 国語分野  
中学校コース 言語文化専修 英語分野  
中学校コース 社会専修  
中学校コース 自然科学専修 数学分野  
中学校コース 自然科学専修 理科分野  
中学校コース 芸術専修 音楽分野  
中学校コース 芸術専修 美術分野  
中学校コース 身体文化専修 保健体育分野  
中学校コース 生活創造専修 技術分野  
中学校コース 生活創造専修 家庭科分野  
乳幼児教育コース  
特別支援教育コース  
養護教諭養成課程

## 3) 推薦対象者

次の各条件を満たす者とする。

- (1) 高等学校の学習成績が優秀であり、学校長が責任を持って推薦できる者
- (2) 平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者

ただし、学校教育教員養成課程

小学校コース（音楽教育に関心を持つ者）、  
小学校コース（図画工作教育に関心を持つ者）、  
小学校コース（家庭科教育に関心を持つ者）、  
中学校コース芸術専修音楽分野、  
中学校コース芸術専修美術分野、  
中学校コース生活創造専修家庭科分野

においては、平成29年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者  
学校教育教員養成課程小学校コース（体育教育に関心を持つ者）

においては、平成30年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者

- (3) 合格した場合に入学を確約できる者

学校教育教員養成課程の推薦対象者は、教員志望者が望ましい。

養護教諭養成課程の推薦対象者は、養護教諭志望者が望ましい。

<注意事項>

- (1) 高等学校既卒者は、できるだけ早い時期に推薦希望を出身高校に願い出ること。
- (2) 国公立大学の推薦入試へ出願することができるのは、1つの大学・学部である。
- (3) 「推薦入試の選抜」の結果不合格となった者（合否未定の者を含む。）は、国公立大学の「前期日程」・「後期日程」にも出願し、受験することができる。ただし、推薦入試で入学手続をした場合は、「前期日程」・「後期日程」を受験しても合格者とはならない。

4) 出願期間：令和元年11月1日（金）～ 7日（木）（期間内郵送必着）

5) 入試期日：令和元年11月16日（土）及び17日（日）  
ただし、1日で実施する募集単位等がある。

6) 選抜方法

※センター試験を課す募集単位については、大学入試センター試験(令和2年1月18日(土)、19日(日)実施)において必要科目を受験すること。受験しない場合は、失格となる。

募集単位等		選抜方法
学校教育教員養成課程 小学校コース	(教育学に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由、面接及び大学入試センター試験(科目については(注2))による。  ※「志望の理由」は、教育への関心・問題意識及び大学入学後の抱負について、本人が自分の考えを600字以内にまとめて記述すること。
	(心理学・教育実践学に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、面接及び大学入試センター試験(科目については(注2))による。  ※面接は、心理学・教育実践学に関する口頭試問を含む。
	(国語教育に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、小論文、面接及び大学入試センター試験(科目については(注2))による。
	(英語教育に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、面接及び大学入試センター試験(科目については(注2))による。  ※面接は、英語に関する口頭試問を含む。
	(社会科教育に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、面接及び大学入試センター試験(科目については(注2))による。
	(算数教育に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、面接及び大学入試センター試験(科目については(注2))による。  ※面接は、算数・数学に関する口頭試問を含む。
	(理科教育に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、面接及び大学入試センター試験(科目については(注2))による。  ※面接は、理科に関する口頭試問を含む。
	(音楽教育に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、面接、実技検査(54頁参照のこと)及び大学入試センター試験(科目については(注2))による。

	(図画工作教育に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、高等学校卒業後の経歴書（既卒者のみ）、面接、志望の理由（注1）、実技検査及び大学入試センター試験（科目については（注2））による。  【実技検査科目】 水彩画 【面接】 面接にあたって、制作した代表作品1点と、作品ファイル1冊（※）を持参すること（大型作品で持参することが不可能な場合は、写真でもよい）。 ※作品ファイル＝入学志願者本人が制作した作品の写真・スケッチ等のファイル	
	(体育教育に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由（注1）、スポーツ活動に関する調査書、面接、実技検査（55頁参照のこと）及び大学入試センター試験（科目については（注2））による。	
	(ものづくりと情報教育に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由（注1）、面接及び大学入試センター試験（科目については（注2））による。  ※面接は、ものづくりと情報に関する口頭試問を含む。	
	(家庭科教育に関心を持つ者)	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由（注1）、小論文、面接及び大学入試センター試験（科目については（注2））による。  ※面接は、家庭科に関する口頭試問を含む。	
中学校コース	言語文化専修	国語分野	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由（注1）、小論文及び面接による。
		英語分野	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由（注1）、面接及び大学入試センター試験（科目については（注2））による。  ※面接は、英語に関する口頭試問を含む。
	社会専修	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由（注1）、面接及び大学入試センター試験（科目については（注2））による。	
	自然科学専修	数学分野	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由（注1）、面接及び大学入試センター試験（科目については（注3））による。  ※面接は、数学に関する口頭試問を含む。
		理科分野	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査書、志望の理由（注1）、面接及び大学入試センター試験（科目については（注3））による。  ※面接は、理科に関する口頭試問を含む。

中学校コース	芸術専修	音楽分野	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、 学校長からの推薦書、調査書、面接及び実技検査 (54頁参照のこと) による。
		美術分野	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、 学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、 高等学校卒業後の経歴書(既卒者のみ)、面接及び 実技検査による。  【実技検査科目】 水彩画 【面接】 面接にあたって、制作した代表作品1点と、作品 ファイル1冊(※)を持参すること(大型作品で持 参することが不可能な場合は、写真でもよい)。 ※作品ファイル=入学志願者本人が制作した作品の 写真・スケッチ等のファイル
	生活創造専修	保健体育分野	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、 学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、 スポーツ活動に関する調査書、小論文、面接及び実技 検査(55頁参照のこと) による。
		技術分野	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査 書、志望の理由(注1)、面接及び大学入試センター 試験(科目については(注3)) による。  ※面接は、技術に関する口頭試問を含む。
	家庭科分野	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、 学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、 小論文及び面接による。  ※面接は、家庭科に関する口頭試問を含む。	
	乳幼児教育コース	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、 学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、 小論文及び面接による。	
特別支援教育コース	個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、調査 書、志望の理由(注1)、小論文、面接及び大学入試 センター試験(科目については(注2)) による。		
養護教諭養成課程	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、 学校長からの推薦書、調査書、志望の理由(注1)、 小論文及び面接による。  ※面接は、保健に関する口頭試問を含む。		

(注1) 「志望の理由」は、該当する課程・コース・専修・分野等に関する志望の理由及び大学入学後の抱負について、本人が自分の考えを600字以内にまとめて記述すること。

(注2) 国語、「地歴及び公民」から1科目、「数学Ⅰ・数学A」又は「数学Ⅱ・数学B」、理科（『「基礎を付した科目」から2科目』又は『「基礎を付していない科目」から1科目』）、外国語（英語（リスニングを含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目）

なお配点は、以下の通りである

大学入試センター					
国語	地歴及び公民	「数学Ⅰ・数学A」又は「数学Ⅱ・数学B」	理科	外国語	計
200	100	100	100	200	700

(注3) 国語、「地歴及び公民」から1科目、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B、理科（『「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目』又は『「基礎を付していない」から2科目』）、外国語（英語（リスニングを含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目）

なお配点は、以下の通りである

大学入試センター					
国語	地歴及び公民	「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」	理科	外国語	計
200	100	100	100	200	900
		100	100		

(注4) 「基礎を付した科目」とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指す。

(注5) 「基礎を付していない科目」とは、物理、化学、生物、地学を指す。

(注6) (注2)・(注3)において、本学が指定する科目数を超えて受験した場合の成績採用方法は、下記の通りとする。

- ① 「基礎を付した科目」から2科目、「基礎を付していない科目」から1科目を受験した場合は、高得点の科目の成績を採用する。
- ② 「基礎を付していない科目」から2科目受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。
- ③ 「地歴及び公民」から2科目を受験した場合は、「第1解答科目」の成績を採用する。
- ④ 「数学」から2科目を受験した場合は、高得点科目の成績を採用する。

(注7) (注3)において、「理科」の「「基礎を付した科目」から2科目と「基礎を付していない科目」から1科目」の合計3科目選択する場合、同一名称を付した科目(例:「物理基礎」と「物理」など)を選択することができる。

(注8) センター試験の外国語で英語を選択した場合、「〔筆記(200点)＋リスニング(50点)〕×0.8＝200点」とし、他の外国語と比較できるようにする。

7) 合格発表：大学入試センター試験を課す募集単位等 令和2年2月10日(月)  
 大学入試センター試験を課さない募集単位等 令和元年12月3日(火)



## 音楽実技検査について

教育学部学校教育教員養成課程小学校コース（音楽教育に関心を持つ者）及び中学校コース芸術専修音楽分野を志望する者

### 検査項目

次のA)、B)を全員が受験する。なお、「音楽実技検査に関する調書」を出願書類と同時に提出すること。

#### A) 次のイとロの両方を受験する。

イ. 次の3つの歌の中から任意の1曲を選び、ピアノ伴奏つき楽譜（例えば市販されている楽譜、自作の伴奏をつけた手書きの楽譜など）を用いて、自分でピアノ伴奏を弾きながら歌う。楽譜を見てもよい。調は自由。

- ・冬げしき（さぎりきゆる みなとえの・・・） 文部省唱歌 2番まで歌う。
- ・ふじ山（あたまをくもの うえにだし・・・） 文部省唱歌 2番まで歌う。
- ・われは海の子（われはうみのこ しらなみの・・・） 文部省唱歌 2番まで歌う。

[注] 当日用いる伴奏つき楽譜（手書きでも可）を、出願書類と同時に提出すること。提出の際、1頁がA4縦のサイズになるようにすること。製本しないこと。（提出された楽譜は返却しない。）

ロ. 「ハノンピアノ教本」のNo.39より、検査当日指定される、同一調号の長調と短調の音階を暗譜で演奏する。ただし、調号が#3つまで、b3つまでの調とする。繰り返しは省略。短調は、和声的短音階の後、続けて旋律的短音階を弾き、カデンツ（終止形）を付ける。速度は、♩=60以上とする。

#### B) 次の1または2のどちらか1つを選択して受験する。

##### 1. 声楽

5分以上10分程度までの任意の独唱曲を原語・暗譜で歌う。（曲数は問わない。オペラ、オラトリオの曲は原調とする。）

##### 2. 器楽

次の楽器の中から1つを選び、5分以上10分程度までの任意の独奏曲を演奏する。（曲数は問わない。ピアノは暗譜とする。）ピアノソナタの楽章を複数演奏する場合は、同一の作品から選ぶこと。

ピアノ、フルート、リコーダー、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

[注] ①上記の1、2とも、伴奏の有無は自由とするが、本学では伴奏者を用意しないので、必要とする場合は、志願者各自で伴奏者を同伴すること。ただし、本学在学学生及び教職員は除くこと。

②上記の1、2とも、演奏する曲の楽譜を出願書類と同時に提出すること。

提出の際、1頁がA4縦のサイズになるようにすること。製本しないこと。（提出された楽譜は返却しない。）

③ピアノ以外の楽器は、志願者各自が持参すること。

④上記の1、2とも、繰り返しは省略。ただし、ダ・カーポは行うこと。

⑤演奏する箇所を指定することがある。

⑥複数曲提出した場合は、「音楽実技検査に関する調書」に記入した曲順通りに演奏すること。なお、演奏する曲目を指定することがある。

⑦5分以内であっても演奏を途中で打ち切ることがある。

## 体育実技検査について

教育学部学校教育教員養成課程小学校コース（体育教育に関心を持つ者）及び中学校コース身体文化専修保健体育分野を志望する者

### 検査項目

次の種目から1科目選択し、受験すること。

種 目	内 容
陸 上 競 技	<p>100m走、400m走、1500m走、100mハードル、110mハードル、走り幅跳び、三段跳び、砲丸投げ、円盤投げの中から1つについて評価する。</p> <p>100m走は、土のグラウンド（使用できない場合ゴムシート上）でスターティングブロックから疾走する。400m走は、土のグラウンド（使用できない場合100mゴムシート上を折り返し走）でスターティングブロックから疾走する。1500m走は、土のグラウンドで400mトラックを3周と3/4周する。100mハードルは女子、110mハードルは男子とする。</p> <p>走り幅跳び・三段跳びは、ゴムシートの助走路から、実測距離を測定する。</p> <p>砲丸投げは、高校用砲丸(男子6kg、女子4kg)を、円盤投げは、高校用円盤(男子1.75kg、女子1kg)を投てきする。</p> <p>なお、専用シューズやスパイクを使用して構わない。また、荒天の場合、屋内において異なる内容に変更することがあるが、選択内容に近い距離や検査内容とする。</p>
バレーボール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2人組のパス</li> <li>2. レセプション（サーブレシーブ）</li> <li>3. アタック</li> <li>4. ポジション別の課題</li> <li>5. 4人対4人のゲーム</li> </ol> <p>（人数によっては、やり方を変えることがある）</p>
バスケットボール	<p>バスケットボールの個人技能をみる（ディフェンスがいない状態で自分の得意なシュートをいくつか行う）</p> <p>パス&amp;ランを基本としたハーフコートの3対3を行う。</p> <p>パス&amp;ランを基本としたオールコートのゲームを行う。</p> <p>（人数によっては、やり方を変えることがある）</p>
サッカー	<p>個人技能：①ボールコントロール、②パス&amp;コントロールを行う。</p> <p>個人戦術：クロスボールに対する①シュートと②ボールクリアランスを行う。</p> <p>グループ戦術：「3対3」の攻防を1つのゴール（GK有）で行う。</p> <p>チーム戦術：「5対5」以上の人数でゲーム形式を行う。</p> <p>（人数によって、やり方を変えることがある）</p>
ダンス	<p>「創作ダンス作品の演技（3分以内）」。</p> <p>作品のタイトル・テーマは自由。音楽（CDに限る）を持参して使用してもよい（プレイヤーは大学で用意）。衣装は自由（スカートをはく、上着を着るなど簡単な衣装をつけてもよい）。創作ダンスに必要なダンステクニックの習熟度と作品を表現する力を評価する。</p>

理学部

1) 推薦入試を実施する学科及び募集人員

学 科	募集人員
基 礎 化 学 科	5 名

2) 推薦入試の対象となる高等学校及び推薦数

全国の国公立高等学校（中等教育学校の後期課程並びに高等部を置く特別支援学校、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を含む。以下同じ。）

推薦できる者の数は、1校につき1名とする。

3) 推薦対象者

次の各条件を満たす者とする。

- (1) 平成31年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 高等学校において化学（又は相当する科目）及び物理（又は相当する科目）を既修又は履修見込みの者 ※ただし、「化学基礎」・「物理基礎」は含まない
- (3) 化学に対する興味と強い学習意欲を持ち、合格した場合に入学を確約できる者

<注意事項>

- (1) 国公立大学の推薦入試へ出願することができるのは、1つの大学・学部である。
- (2) 「推薦入試の選抜」の結果不合格となった者（合否未定の者を含む）は、国公立大学の「前期日程」・「後期日程」にも出願し、受験することができる。ただし、推薦入試で入学手続をした場合は、「前期日程」・「後期日程」を受験しても合格者とはならない。

4) 出願期間：令和元年11月1日（金）～ 7日（木）（期間内郵送必着）

5) 入試期日：令和元年11月16日（土）

なお、大学入試センター試験（令和2年1月18日（土）、19日（日）実施）において、必ず下記6)の必要科目を受験すること。受験しない場合は、失格となる。

6) 選抜方法：個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、志望の理由、調査書、面接（理科【化学、物理】及び数学に関する口頭試問を含む。）及び大学入試センター試験【3教科5科目】{数Ⅰ・数A, 数Ⅱ・数B, 化, (物, 生, 地学)から1, 英(リスニングを含む。)}による。

注 「志望の理由」は、数ある大学の化学系学科の中から、なぜ埼玉大学の基礎化学科を志望するかについて明確に書いてください。加えて、これまでの理科に関する研究や勉学の活動の具体例を挙げつつ、化学についての興味・関心・学習意欲について自己アピールしてください。研究や勉学の活動とは、学校や課外活動での理科実験やレポート作成、科学系の部活動、グループまたは個人の自由研究や課題研究、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）における研究などを含みます。「志望の理由」は面接の際の資料とします。

配点	大学入試センター試験				面接	
	数Ⅰ・数A	数Ⅱ・数B	化学	(物, 生, 地学)のうち1		英
	100	100	100	100	250	650

7) 合格発表：令和2年2月10日（月）

工 学 部

1) 推薦入試を実施する学科及び募集人員

学 科	募集人員
環境社会デザイン学科	10名

2) 推薦入試の対象となる高等学校及び推薦数

全国の国公立高等学校（中等教育学校の後期課程並びに高等部を置く特別支援学校、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を含む。以下同じ。）

推薦できる者の数は、1校につき2名以内とする。

3) 推薦対象者

以下の各条件を満たす者とする。

- (1) 平成30年4月から令和2年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、合格した場合に入学を確約できる者
- (2) 調査書中、学習成績概評がB以上で、理数系（物理、数学）及び英語の成績が優れている者
- (3) 物理の実験や課題研究等に興味を持ち、工学部環境社会デザイン学科の学生として適性を有する者

<注意事項>

- (1) 国公立大学の推薦入試へ出願することができるのは、1つの大学・学部である。
- (2) 「推薦入試の選抜」の結果不合格となった者（合否未定の者を含む）は、国公立大学の「前期日程」・「後期日程」にも出願し、受験することができる。ただし、推薦入試で入学手続をした場合は、「前期日程」・「後期日程」を受験しても合格者とはならない。

4) 出願期間：令和元年11月1日（金）～ 7日（木）（期間内郵送必着）

5) 入試期日：令和元年11月16日（土）

なお、大学入試センター試験（令和2年1月18日（土）、19日（日）実施）において、必ず下記6）の必要科目を受験すること。受験しない場合は、失格となる。

6) 選抜方法

個別学力検査を免除し、学校長からの推薦書、志望の理由、自己アピール、活動実績、調査書、小論文、面接及び大学入試センター試験〔3教科4科目〕{数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数B、物、英（リスニングを含む。)}による。（注1）（注2）

（注1）推薦入試では、センター試験の外国語（英語）の受験を必須とします。

（注2）外国語（英語）の評価は、大学入試センター試験の成績もしくは、実用英語技能検定試験（英検）、TOEIC（IPを含む）、TOEFL（PBT, iBT）の結果をセンター試験の成績に換算し、最も高い得点の成績を合否判定に用いる。なお、実用英語技能検定試験、TOEIC、TOEFLの成績は、本学への成績提出日の2年前より成績提出日までに実施された試験の成績を有効とする。

配点	大学入試センター試験（注3）				小論文	面接
	数Ⅰ・数A	数Ⅱ・数B	物理	英語（注4）		
	100	100	200	200	400	400

（注3）センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算する。

センター試験「理科②」は、第1解答科目を採用する。

（注4）実用英語技能検定試験、TOEIC、TOEFLの成績は、英語200点満点に以下のように換算して評価する。

- ① 実用英語技能検定試験：準2級 120点、2級160点、準1級・1級200点
- ② TOEIC：TOEIC 得点×200/780、ただし200 点を上限とする。
- ③ TOEFL(PBT)：TOEIC 点 = (TOEFL (PBT) 点 - 296) / 0.348 を使い TOEIC 点数に換算する。
- ④ TOEFL(iBT)の得点は、ETS から公表されている換算表により TOEFL(PBT) の得点に換算し、③の方法で計算する。

なお、TOEIC-IP の得点は、志願者の在籍する高等学校が実施団体の場合のみ認められます。

7) 合格発表：令和2年2月10日（月）

### 3 社会人入試

経済学部 （夜間主コース）社会人入試

1) 社会人入試を実施する学科及び募集人員

学 科	募集人員
経 済 学 科	15名

2) 出願資格

次の条件を満たす者とする。

大学入学資格のある者又は大学入学の前までに入学資格を有することとなる見込みの者で、令和2年4月1日現在で満年齢が23歳以上の者

3) 出願期間： 令和元年10月7日（月）～15日（火）（期間内郵送必着）

4) 入試期日： 令和元年11月16日（土）

5) 選抜方法

大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、小論文及び面接による。

6) 合格発表： 令和元年12月3日（火）

## 4 帰国子女入試

### (1) 募集人員・出願期間等

学部・学科名	募集人員	出願期間	入試期日
教養学部 教養学科	若干名	令和2年1月20日(月) ～ 1月27日(月)	令和2年2月25日(火)
工学部 機械工学・システムデザイン学科 電気電子物理工学科 情報工学科 応用化学科 環境社会デザイン学科	若干名 若干名 若干名 若干名 若干名		令和2年2月26日(水)

### (2) 入試方法

大学入試センター試験を免除し、次の表による試験の成績及び出身学校等の成績による。

学部・学科名	学力検査	小論文	面接
教養学部 教養学科	×	×	○
工学部 機械工学・システムデザイン学科 電気電子物理工学科 情報工学科 応用化学科 環境社会デザイン学科	○ (一般入試前期日程工学部数学と同じ)  数学〔数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B〕  ※数Bは「数列」と「ベクトル」	×	○

### (3) 出願資格

日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者で、外国において最終の学年を含め2学年以上継続して学校教育を受けている者で、次のいずれかに該当するもの。

- ① 外国において学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を平成30年（2018年）4月1日から令和2年（2020年）3月31日までの間に修了した者及び修了する見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（学校教育法施行規則第150条第1号）
- ② 外国において次の資格のいずれかを平成30年(2018年)から令和2年(2020年)に取得した者
  - (1) スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格
  - (2) ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格
  - (3) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格

[注1] 上記①の「これに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの」は、次のとおりです。  
(昭和56年文部省告示第153号第1号)

外国において、学校教育における12年の課程を修了した者と同等以上の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定（国の検定に準ずるものを含む）に平成30年（2018年）又は平成31年・令和元年（2019年）に合格した者で、18歳に達した者及び令和2年（2020年）3月31日までに18歳に達する者

[注2] 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとはみなされません。

[注3] インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の外国の教育機関出身者は、出願が認められない場合があるので、必ず出願前（できるだけ早い時期）に、アドミッションセンター（入試課）までお問い合わせください。

(4) 合格発表： 令和2年3月6日(金)

## 5 私費外国人留学生入試

### (1) 実施学部・学科等及び選抜方法

以下に示す学部・学科等において、募集人員若干名で実施する。  
 なお、選抜方法は、大学入試センター試験を免除し、次の表による試験及び62頁の表による「日本留学試験で入学志願者に解答させる教科・科目等」の成績及び出身学校等の成績による。

学部・学科等	学力検査	学力検査	小論文	実技検査	面接 (注10)	入試期日等		
	一般入試と 同一試験	外国人留学生 用試験	外国人留学生 用試験	一般入試と 同一試験		学力検査等日程	面接日程	
教養学部教養学科	○ (15頁前期参照) (注2)	×	×	×	○	令和2年2月25日(火)		
経済学部経済学科(昼間コース)	×	×	○ (注7)	×	○ (注8)	第1次試験 令和2年2月18日(火)	第2次試験 令和2年2月20日(木)	
教育学部 学校教育教員養成課程 小学校コース 中学校コース 乳幼児教育コース 特別支援教育コース 養護教諭養成課程	教育学専修	○(注3)			○ (41、42頁 前期参照)	令和2年2月25日(火)		
	心理・教育実践学専修	○(注3)						
	言語文化専修	国語分野	○(注3)					
		英語分野	○(注3)					
	社会専修	○(注4)						
	自然科学専修	算数分野	○(注5)					
		理科分野	○(注6)					
	芸術専修	音楽分野	×					
		図画工作分野	×					
	生活創造専修	ものづくりと 情報分野	×					
		家庭科分野	○(注3)					
	言語文化専修	国語分野	○	×	×	○ (41～43頁 前期参照)	令和2年2月21日(金)	
		英語分野	○					
	社会専修	○						
	自然科学専修	数学分野	○					
		理科分野	○					
	芸術専修	音楽分野	×					
		美術分野	×					
	身体文化専修	保健体育分野	×					
	生活創造専修	技術分野	×					
家庭科分野		○						
乳幼児教育コース	○							
特別支援教育コース	○							
養護教諭養成課程	×				×	令和2年2月25日(火)		
理学部	数学科	○ (33、35頁 後期参照)	×	×	○	令和2年3月12日(木)	令和2年3月13日(金)	
	物理学科							
	基礎化学科							
	分子生物学科							
	生体制御学科							
工学部	機械工学・システムデザイン学科	×			○	令和2年2月26日(水)		
	応用化学科							
	電気電子物理工学科	×	×	×				
	情報工学科	○ (注9)						
環境社会デザイン学科								

- 注1 出願期間は、令和2年1月20日(月)～1月27日(月)である。  
 詳細については令和元年11月頃に公表する「令和2年度埼玉大学学生募集要項」を参照すること。
- 注2 教養学部の学力検査には、辞書を1冊使用できる。但し電子辞書の使用は禁止する。
- 注3 小学校コース 文系の外国語を受験する。19頁前期参照。
- 注4 中学校コース 社会専修の小論文を受験する。23頁前期参照。
- 注5 小学校コース 理系の数学を受験する。19頁前期参照。
- 注6 小学校コース 理系の理科を受験する。19頁前期参照。
- 注7 経済学部の小論文試験は、「課題を与え、思考力、理解力、日本語能力をみる」という出題意図で実施する。
- 注8 経済学部の第2次試験(面接)は第1次試験(小論文)合格者に対して行う。(第1次試験の合格発表は令和2年2月19日(水)14:00)
- 注9 工学部・電気電子物理工学科、情報工学科及び環境社会デザイン学科の学力検査は、数学Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B(「数列」と「ベクトル」)である。
- 注10 面接は日本語で行う。



学部・学科等		日本留学試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	出題言語	入学者選抜に利用 する日本留学試験		
教養学部		日本語、総合科目、数学(コース1)	日本語、英語の どちらでも可	平成30年6月～ 令和元年11月 実施分		
経済学部	昼間コース 経済学科	下記の文系・理系のどちらを選択しても可  文系: 日本語 総合科目 数学(コース1又はコース2)  理系: 日本語 理科(3科目のうち2科目選択) 数学(コース1又はコース2)	日本語のみ			
教育学部	学校教育教員養成課程				教育専修	
					心理・教育実践学専修	
					言語文化専修	国語分野
						英語分野
					社会専修	
					自然科学専修	算数分野
						理科分野
					芸術専修	音楽分野
						図画工作分野
					生活創造専修	ものづくりと 情報分野
						家庭科分野
					言語文化専修	国語分野
						英語分野
					社会専修	
					自然科学専修	数学分野
						理科分野
					芸術専修	音楽分野
						美術分野
身体文化専修	保健体育分野					
生活創造専修	技術分野					
	家庭科分野					
乳幼児教育コース						
特別支援教育コース						
養護教諭養成課程						
理学部	数学科 分子生物学科	日本語 理科(3科目のうち2科目選択) 数学(コース2)				
	物理学科	日本語 理科[(物理)と(化学・生物から1)の計2] 数学(コース2)				
	基礎化学科	日本語 理科[(化学)と(物理・生物から1)の計2] 数学(コース2)				
	生体制御学科	日本語 理科[(化学)と(生物)の計2] 数学(コース2)				
工学部	機械工学・システムデザイン学科 電気電子物理工学科 情報工学科 環境社会デザイン学科	日本語 理科[(物理)と(化学・生物から1)の計2] 数学(コース2)				
	応用化学科	日本語 理科[(物理)と(化学)の計2] 数学(コース2)				

## (2) 出願資格

本学に出願できる者は、次の①～③のすべてに該当する者とする。

① 日本の国籍を有しない者（日本国永住許可を得ている者を除く）

注1 日本の国籍を有しない者であっても、日本の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）を卒業した者及び令和2年3月卒業見込の者は、一般の入学志願者と同じ扱いになり、この入試には出願できない。

注2 日本国籍と外国籍の両方を持っている者（二重国籍）は、私費外国人留学生入試の出願はできない。

② 出入国管理及び難民認定法において、大学入学に支障のない在留資格(留学等)を有する者で、次のいずれかに該当する者

ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び令和2年(2020年)3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

イ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者

ウ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者

エ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者

オ グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格を有する者

カ 外国人を対象に教育を行うことを目的として我が国において設置された教育施設であって、その教育活動等について、文部科学大臣が指定する国際的な評価団体（WASC, ACSI, CIS）の認定を受けたものに置かれる12年の課程を修了した者

注 上記アの「これに準ずる者で文部科学大臣の指定した者」は、次のものが含まれる。

- ・ 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者と同等の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定（国の検定に準ずるものを含む。下記において同じ）に合格した者で、令和2年(2020年)3月31日までに18歳に達する者
- ・ 外国において、高等学校に対応する学校の課程を修了した者（これと同等以上の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定に合格した者を含む）で、文部科学大臣が別に定めるところにより指定した我が国の大学に入学するための準備教育を行う課程又は研修施設の課程等を修了した者
- ・ 外国において、指定された11年以上の課程を修了したとされるものである等の要件を満たす高等学校に対応する学校の課程を修了した者
- ・ 我が国において、高等学校に対応する外国の学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る）と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を修了した者
- ・ 我が国において、高等学校に対応する外国の学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものを除く）と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を修了した者で、文部科学大臣が別に定めるところにより指定した我が国の大学に入学するための準備教育を行う課程を修了した者

③ 独立行政法人 日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」を受験した者

注1 「日本留学試験」の受験科目等については、62頁の表を参照すること。

注2 経済学部、工学部志願者は、更に以下の条件を満たすこと。

(1) 経済学部志願者においては、「日本留学試験」の日本語（読解、聴解・聴読解）の合計得点が280点以上、総合科目又は理科（3科目のうち2科目選択）と数学（コース1又はコース2）の合計得点が280点以上

(2) 工学部機械工学・システムデザイン学科、応用化学科及び環境社会デザイン学科志願者においては、「日本留学試験」の日本語（読解、聴解・聴読解、記述）の合計得点が270点以上、理科（志望する学科が指定する2科目）の合計得点が120点以上、数学（コース2）の得点が120点以上

(3) 工学部電気電子物理工学科及び情報工学科志願者においては、「日本留学試験」の日本語（読解、聴解・聴読解、記述）の合計得点が320点以上、理科（物理と化学又は生物）の合計得点が140点以上、数学（コース2）の得点が140点以上

注3 日本留学試験の「受験票」・「成績通知書」(コピーは不可)を本学の試験当日に必ず持参すること。  
なお、受験票・成績通知書は、出願の際提出した「成績通知書の写し」に則したものを持参すること。

注4 日本留学試験については下記に照会すること。

照会先 〒153-8503 東京都目黒区駒場4-5-29

独立行政法人 日本学生支援機構 留学生事業部留学試験課 TEL 03-6407-7457(直通)

(3) **合格発表** 令和2年3月6日(金) (※経済学部の第1次試験の合格発表は令和2年2月19日(水))  
なお、理学部については令和2年3月20日(金)とする。

## VI 障がい等のある入学志願者の事前相談について

本学に出願を希望する者で、身体等に障がいがあり、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、次により本学へ事前相談の申請を行ってください。

なお、不明な点又は事前相談の締切日までに申請することができない場合には事前相談担当までご相談ください。

事前相談担当：アドミッションセンター（入試課） 電話048-858-3036（平日9時～17時）

### 1 申請方法

申請する場合は、次の該当する①～③を【〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学学務部入試課】あてに提出してください。

郵送の場合は、「受験上及び修学上の配慮申請書類在中」と封筒に朱書してください。

提出された書類に基づき、本学関係者で検討を行います。ただし、検討の過程において、本人、保護者又は出身学校関係者へ照会する場合があります。

①	<b>令和2年度埼玉大学入学者選抜試験受験上及び修学上の配慮申請書</b> （本学所定の用紙） 申請用紙は、学務部入試課の窓口で直接受け取るか、埼玉大学ホームページからダウンロードして入手してください。 ( <a href="http://www.saitama-u.ac.jp/entrance/exam_info/consultation/hairyo-shinsei.pdf">http://www.saitama-u.ac.jp/entrance/exam_info/consultation/hairyo-shinsei.pdf</a> )
②	<b>医師の診断書</b> （障がいの程度及び必要とする具体的な措置等を記載したもの） 発行後6ヶ月以内の原本又は大学入試センター試験において受験上の配慮を申請して、その後、症状並びに希望する措置等に変更がない場合には、大学入試センターに提出した医師の診断書の写しを提出してください。
③	<b>受験上の配慮事項決定通知書</b> 大学入試センター試験において、受験上の配慮を申請して認められた場合、大学入試センターより「受験上の配慮事項決定通知書」が送付されます。埼玉大学に事前相談を申請する際は、その通知書の写しを提出してください。

### 2 申請書提出時期

出願受付期間の開始日から換算し20日前までに申請してください。但し、一般入試（前期日程・後期日程）については、令和元年12月24日（火）までとなります。

障がいの程度が重度な場合には対応の検討に時間を要することもあります。その場合にはできるだけ早めに申請してください。

なお、上記の締切日以降を過ぎた時点で申請した場合は、出願受付期間前に回答することができないことがあります。その場合には、要望事項等への回答が来る前であっても出願受付期間内に出願する必要があるため、出願後に希望した措置の可否が通知されることになります。

（出願受付期間を延長することはできません）

### 3 申請受付後の回答日

出願受付期間開始日の前日（予定）

提出された書類を元に、ご希望の措置が実施できるか本学関係者が検討を行い、支障がないことを確認した時点で、事前相談申請書に記載されている住所あてに、回答文書を郵送します。そのため、上記の回答日はあくまで予定日となります。

## VII 入学資格審査について

本学入学試験受験に際し、本学学則第33条第8号に規定する「その他本学において、個別の入学審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者」の入学資格認定を必要とする者については、本学に入学の意志のある場合に限って、本学入学資格審査要項に基づき個別に認定のための審査を行いますので、審査を希望する者は、本学入学資格審査要項を熟読の上、下記にお問い合わせください。

なお、審査には相当な時間がかかりますので、お早めにお問い合わせください。

連絡先 〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学入試課 電話 048-858-3036 (平日 9時～17時) FAX 048-858-3683
--

※ 埼玉大学入学資格審査要項、申請書等は本学ホームページに掲載されています。  
([http://www.saitama-u.ac.jp/entrance/exam\\_info/examination/](http://www.saitama-u.ac.jp/entrance/exam_info/examination/))

## VIII 入試情報の開示

令和2年度入試情報について、請求に基づき入試成績を開示します。  
詳細は、学生募集要項に掲載します。

## IX 令和2年度学生募集要項の入手方法

募集要項種別	発表時期	入手方法
アドミッションオフィス (AO) 入試	7月頃	本学では、WEB出願の導入に伴い、各種学生募集要項の冊子は配布しません。 左記発表時期以降、本学ホームページからダウンロードしてください。 <a href="http://www.saitama-u.ac.jp/entrance/requirements/">http://www.saitama-u.ac.jp/entrance/requirements/</a>
推薦入試 (教養・経済・教育・理・工)	7月頃	
一般入試 (前期日程・後期日程)、帰国子女入試、及び私費外国人留学生入試	11月頃	
経済学部 (夜間主コース) 社会人入試	7月頃	

## X 入試情報ホームページ及びスマホサイト

<http://www.saitama-u.ac.jp> 【パソコン】 スマホサイト  
<http://telemail.jp/web/saitama-u/> 【パソコン・スマホ】 QRコード



LINE@



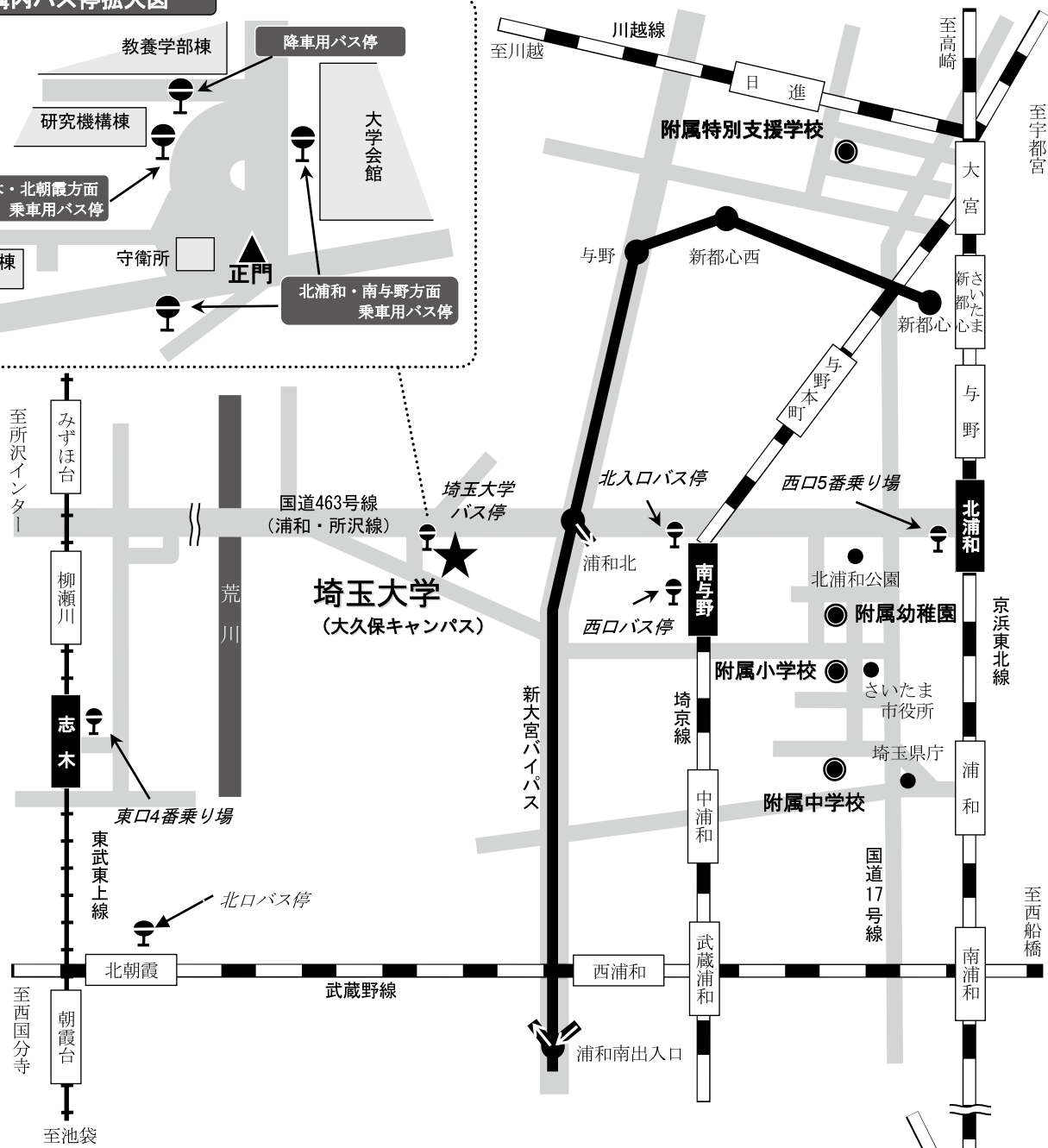
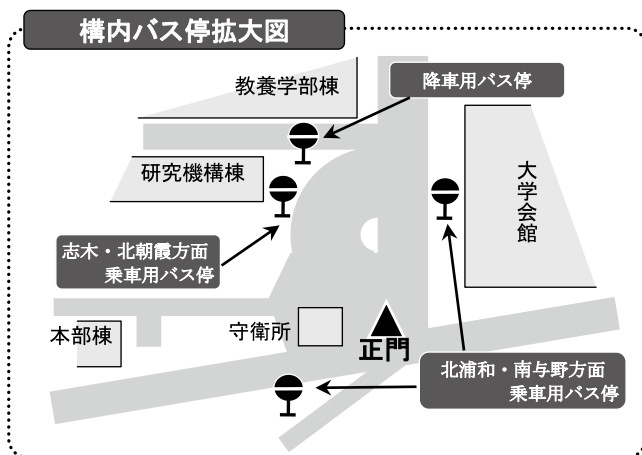
LINEでも入試情報を配信しております。

ID: @saitama-u

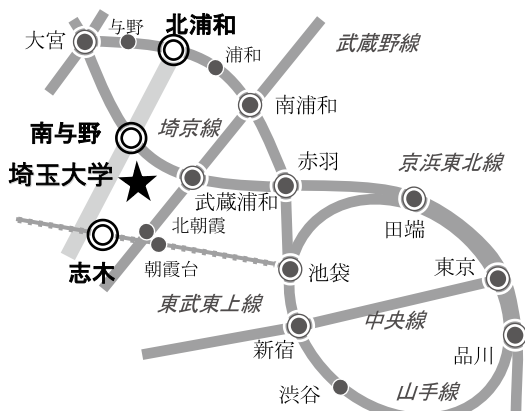


# 大学周辺地図

## 構内バス停拡大図



## 広域路線図



## 【電車所要時間】

- ◎北浦和まで
    - ・東京から快速利用で約 39 分
    - ・上野から快速利用で約 33 分
    - ・大宮から約 7 分
  - ◎南与野まで
    - ・新宿から約 34 分
    - ・池袋から約 29 分
    - ・大宮から約 7 分
  - ◎志木まで
    - ・池袋から急行利用で約 20 分
    - ・成増から約 10 分
    - ・川越から急行利用で約 12 分
- ※南与野には埼京線快速は停車しませんのでご注意ください。



本要項についての問い合わせ先

〒 338 - 8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保 255 埼玉大学 アドミッションセンター (入試課)

TEL 048 (858) 3036

※ 問い合わせは、平日の 9 時～17 時の間に、志願者本人が行ってください。

教養学部志願者 教養学部係 TEL 048 (858) 3044

経済学部志願者 経済学部係 TEL 048 (858) 3287

教育学部志願者 教育学部係 TEL 048 (858) 3144

理学部志願者 理学部係 TEL 048 (858) 3345

工学部志願者 工学部係 TEL 048 (858) 3429